

河川基金助成事業

「機関庫の川から学ぶ自分達の生活と
自然環境とのつながり」

報告書

助成番号：2024 - 7214 - 002

北海道帯広市立豊成小学校

校長 氏名 平野 司

2024 年度

助成番号	助成事業名		学校名			
2024-7214-002	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり		帯広市立豊成小学校			
所在地	北海道帯広市清流西1丁目1番地1	対象河川名	機関庫の川			
対象学年	1学年(88人)	主たる教科	生活科			
河川教育の目標	水辺での <u>体験活動</u> を通じて、 <u>探究的な見方や考え方を</u> 育む。 <u>自分達の生活とのつながり</u> を実感し、 <u>恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を</u> 育む。					
育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。					
学習活動の内容と成果						
<p>[内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活科の単元「いくぞ！がっこうたんけんたい」では、学校周辺の名前を調べる上で、学校裏に流れる小川が「機関庫の川」という名前だということを知り、流れる様子を観察することができた。 生活科の単元「わたしのはなをそだてよう」では、昨年度の6年生がザリガニ堆肥を作ってくれたことを教えてもらい、栽培活動に取り組んだ。 生活科の単元「生きもの大すき」では、川で活動する上で最も大切であるライフジャケットの着用の仕方について確認することができた。帯広北高等学校の生徒50名の皆さんの協力を得て、教員を含め、多くの大人の目で野外活動を実践できたことに大きな意義がある。 生活科の単元「ふゆとなかよし」では、他の季節とは違う様子の機関庫の川の様子を観察することができた。 <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの四季によって、機関庫の川の様子を観察することで、親しみを感じながら変化に気付くことができた。50年振りの暖かさにより例年のような十勝ならではの冬を感じる機会は少なかったが、驚いたことや不思議に思ったことなどを観察カードに記す様子が見られた。 今年度の1年生も、機関庫の川やそこに生息する生き物と楽しく関わる姿が見られた。身近なお兄さんお姉さんと一緒に楽しみながら励まされながら、川の水と触れ合うことができた。本実践後に、見て聞いて触って交流して学んだことについて、絵や文章で記録を残し、発表会を実施することができた。 						
学びの創意工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <u>人間関係形成・社会形成能力の育成を意識した授業展開</u> 帯広北高校に協力をいただき、毎年多数の生徒として来校していただいている。初めて出会う人と距離を縮めながら生き物の捕り方を一緒に考え、楽しく活動する時間を設定している。 <u>対象学年間の学習のつながり</u> 2年生の学習の単元で、機関庫の川の生き物と親しむ活動につなげていく。 					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	<ul style="list-style-type: none"> 他学年の学習の様子や生活科の学習を通じて、機関庫の川を「<u>身近な川</u>」として認識している様子が見られる。2年生以降で学習する川の活動を楽しみにしている様子が見られる。 <u>川の生き物に対して興味をもっている様子</u>が見られる。水槽の飼育の様子に興味を示し、ヤマメやウグイ、サケの稚魚やニホンザリガニのを観察したりお世話をしたりする姿が見られる。 					
支援者等 (複数記入可)						
保護者	外部小学校	外部中学校	<u>外部高校</u>	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等		関係団体 (漁協、農協) 等		企業	その他
支援の概要	生活科「川の学習」の取組では、帯広北高等学校50名の生徒の協力を得て、初めて川に入る上での安全面の保障や同じ地域で学業に励む高校生に憧れをもつキャリア教育の視点から、効果的な学習を展開することができている。					
成果発表	成果作品		発表方法			
	観察記録カード (教室・廊下に掲示)		観察記録カードを 投影した発表会			
今後の課題・展開						
<ul style="list-style-type: none"> 豊成小学校裏には、機関庫の川が流れており、<u>四季の変化の違い</u>を子どもたちが気付くことができる工夫や機会を考えることができる時間を設定していくことが必要である。 今年度も、高校生のボランティアの皆さんの協力により、有意義な川の学習の実践ができた。帯広北高等学校との連携を土台に、他機関との連携についても検討・模索をしていきたい。 						

助成番号	助成事業名		学校名			
2024-7214-002	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり		帯広市立豊成小学校			
所在地	北海道帯広市清流西1丁目1番地1	対象河川名	機関庫の川			
対象学年	2学年(86人)	主たる教科	生活科			
河川教育の目標	水辺での <u>体験活動</u> を通じて、 <u>探究的な見方や考え方を</u> 育む。 <u>自分達の生活とのつながり</u> を実感し、 <u>恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を</u> 育む。					
育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。					
学習活動の内容と成果						
<p>[内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活科の単元「大きくそだてわたしの野さい」では、昨年度の取組を思い出し、卒業生に感謝の気持ちをもって「ザリガニ堆肥」を有効活用した。子どもたちそれぞれで、自分の栽培したい野菜に堆肥を使って育てる学習を進めた。 生活科の単元「みんな生きている」では、昨年度の川の学習での経験を基に、機関庫の川について覚えていることについて確認した。今年度も帯広北高等学校の生徒50名の皆さんの協力を得て、安全面の配慮に加えて、キャリア教育（人間関係形成・社会形成能力）において、貴重な学習の機会を得ることができた。機関庫の川における学習では、昨年度より広い視点で学習に取り組む様子が見られた。お兄さんお姉さんとのグループでの話し合いでは、川の生き物に着目することに加え、その周りの環境についても発表することができた。 <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ザリガニ堆肥の効果を実感しながら、継続的に栽培している野菜の成長の観察記録を残すことができた。 高校生のお兄さんお姉さんとの話し合いの後、手際よく準備を進めることができた。機関庫の川で捕れた魚の名前やその特徴に興味をもち捕まえ方を工夫する様子が見られた。川の周辺の植物の様子に着目する児童も多く見られた。 川の学習を実施後に、生き物の観察の時間を十分に設定し、高校生と一緒に捕った生き物の観察や交流を行った。生き物によって、泳ぎや動きが違うことに着目し多くの発見をすることができた。たくさんの生き物が捕れたため、その中の一部の魚を校内の水槽に移し、飼育することができた。昨年度の経験を基に、より広い視野で気付きや疑問を持っていることを、観察記録カードの発表で交流することができた。 						
学びの創意工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <u>人間関係形成・社会形成能力の育成を意識した授業展開</u> 帯広北高校に協力をいただき、毎年多数の生徒として来校していただいている。低学年における2年間の取組を通して、距離を縮めながら生き物の捕り方を一緒に考え、楽しく活動する時間を設定している。1年生のときより交流時間を多く設定し、発表場面を増やすことができた。 <u>対象学年間の学習のつながり</u> 低学年の学習を土台として、3年生の総合的な学習の時間の単元「機関庫の川と友だち」に展開していく。機関庫の川に関わる調査活動や調査方法を検討し、取組を進めていく。 					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の経験を生かし、機関庫の川でどんな生き物が捕れるか、どうやったら捕ることができるかについて高校生と相談する姿が見られた。 川の周りの環境に目を向けるなど、<u>広い視野をもって興味をもつ子どもたち</u>が多く見られる。 					
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	<u>外部高校</u>	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他
支援の概要	生活科「川の学習」の取組では、昨年度の引き続き、帯広北高等学校50名の生徒の協力を得て、川に入る上での安全面の保障や同じ地域で学業に励む高校生に憧れをもつキャリア教育の視点から、効果的な学習を展開することができている。					
成果発表	成果作品			発表方法		
	観察記録カード（教室・廊下に掲示）			観察記録カードを投影した発表会		
今後の課題・展開						
<ul style="list-style-type: none"> 機関庫の川の中やそこに棲む生き物だけでなく、周りの環境を含めて地域のよさとして認識し、<u>主体的に調べる探究の心</u>へつなげていくことが重要である。 今年度も、高校生のボランティアの皆さんの協力により、有意義な川の学習の実践ができた。帯広北高等学校との連携を土台に、他機関との連携についても検討・模索をしていきたい。 						

助成番号	助成事業名		学校名			
2024-7214-002	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり		帯広市立豊成小学校			
所在地	北海道帯広市清流西1丁目1番地1	対象河川名	機関庫の川			
対象学年	3学年(102人)	主たる教科	総合的な学習の時間			
河川教育の目標	水辺での <u>体験活動</u> を通じて、 <u>探究的な見方や考え方を</u> 育む。 <u>自分達の生活とのつながり</u> を実感し、 <u>恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を</u> 育む。					
育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。					
学習活動の内容と成果						
<p>[内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年10月に、帯広市立第八中学校から受精卵をいただき、学校内の水槽でサケの稚魚になるまで育ててきた。その後、4月下旬にサケの稚魚を機関庫の川へ放流した。5月には、地域ボランティアの先生が来校し、サケがどのように海で育ち、川に帰ってくるのかについてお話をいただいた。 総合的な学習の時間の単元「機関庫の川と友だち」では、サケのお話から得た情報を基に、機関庫の川やその周りの環境に関わる活動に取り組むことができた。今年度は、新たな取組として、帯広畜産大学の動物生態学の先生をお招きし、機関庫の川周辺に生息する動植物の観察を通して、その生態系を考える機会をいただいた。 機関庫の川をフィールドに学習し、同じ課題をもつ児童でグループを作った。学習してきたことをスライドでまとめ、12月にお世話になったボランティアの先生方や保護者の方々の前で発表することができた。 <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> サケや川に詳しい地域ボランティアの方々や大学の先生のご協力をいただき、専門的な知識や体験学習の機会を得ることができた。それらの経験から疑問が生まれたい調べたいことを見つけたりする様子が見られた。 野生動物の生態や植物のことや動物同士の関係性についてのアクティビティを実施することができた。 水辺体験学習では、魚を中心とする生き物を捕り、それらの特徴についてボランティアの先生方と詳しい観察や交流ができた。捕れた生き物については、採捕個体数の経年変化として今後もその動向を調べていく。 児童の「やってみよう」という気持ちを重視し、課題解決活動に取り組むことができた。聞き手をイメージし、事前に相手意識をもって発表する練習を重ね、多くの保護者の方々に、タブレット端末での発表ができた。 						
学びの創意工夫点	<ul style="list-style-type: none"> 「やってみよう」という気持ちを重視した課題解決学習 昨年度までの学習の実践をベースに、児童の疑問や課題に思ったことを解決する展開を実施してきた。課題設定や自分自身と環境とのかかわりを考えることをつなげた。 対象学年間の学習のつながり 低学年の生活科で実施した経験が、今年度の学習（身近な自然環境を多角的に捉えて自分達とのかかわりを考えること）につながる。これらの経験を踏まえ、4年生での理科や社会の学習で、河川における流域の考えの素地を作り、防災教育への考え方へとつなげていく。 					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	<ul style="list-style-type: none"> 慣れ親しんできた機関庫の川やその周辺の環境について、多角的に捉え、様々な現状の課題を把握し、機関庫の川に対して考えたことやできることについて、熱心にまとめる姿が見られた。 体育館を会場に、多数の保護者やお世話になったボランティアの先生方の前で、しっかりと発表することができた。この日に向けて、発表の仕方についてリハーサルを重ねることができた。 					
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等	関係団体（漁協、農協）等		企業	その他	
支援の概要	地域の専門家と「帯広サケの会」にご協力をいただいている。川の活動には、北海道開発局帯広開発建設部、NPO法人「十勝多自然ネット」に様々な支援をいただくことができた。					
成果発表	成果作品			発表方法		
	ワークシート・スライド			グループでの調査や活動を参観日で発表		
今後の課題・展開						
<ul style="list-style-type: none"> 機関庫の川を学習材として、児童の思いや考えを重視し活動を進めることができた。今年度も、児童が設定した課題に対して主体的に取り組むことができたが、振り返りを基に、来年度以降の思考の広がりを働きかけていく。 タブレット端末を活用した取組がスタンダードとなってきている。より対外的な交流の幅を広げていきたい。 						

助成番号	助成事業名			学校名		
2024-7214-002	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり			帯広市立豊成小学校		
所在地	北海道帯広市清流西1丁目1番地1	対象河川名	機関庫の川			
対象学年	4学年(120人)	主たる教科	理科・社会			
河川教育の目標	水辺での <u>体験活動</u> を通じて、 <u>探究的な見方や考え方を</u> 育む。 <u>自分達の生活とのつながり</u> を実感し、 <u>恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を</u> 育む。					
育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。					
学習活動の内容と成果						
<p>[内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> 理科の単元「地面を流れる水のゆくえ」では、機関庫の川で学んできた水の流れを基に、地面の傾きや土の種類、水の浸みこみ方などを総合的に考えながら、観察や実験に取り組むことができた。 社会科の単元「水はどこから」では、帯広市上下水道部の職員の方々を講師としてお招きし、水道出前授業を実施することができた。機関庫の川の水が流れ込む札内川の水が、私たちの生活を支えていることを知る機会となった。 社会科の単元「自然災害からくらしを守る」では、札内川堤防にある北海道エールセンターを利用し、札内川の水生生物調査、水質検査、川の横断や川流れの体験学習を実施した。 豊成小学校センターホールにある大型地図とボールを活用して、帯広十勝に流れる川の流域を把握し、アクティビティを通して、防災教育の考え方を知るきっかけを作る時間を設けることができた。 <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 今まで川の学習として慣れ親しんできた機関庫の川での経験を基に、4年生で学習する川や水の観察や実験の方法や考え方について、それぞれが自主的に取り組む姿が多く見られた。 大型地図とボールを用いて、アクティビティを実施することで川が氾濫しやすい場所について考える機会を作った。また、ハザードマップを確認し、水害に対する意識を高めることができた。 バス学習の際、十勝川支流の札内川に行く機会を設けることができた。3年生のときに、機関庫の川で学習した同様の調査や検査を実施することで、札内川との比較をしながら行うことができた。 						
学びの創意工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <u>教科横断的な学びを意識した学習計画の実施</u> 総合的な学習の時間、社会科、理科などで川や水を取り扱う学習内容にそれぞれ関連付けをしながら学習計画を立て、<u>自分達との生活のつながり</u>を考える機会とした。 <u>対象学年間の学習のつながり</u> 機関庫の川で取り組んだ活動から範囲を広げ、<u>流域や流域防災の考え方</u>を身に付けていく。次年度の社会科や理科で学ぶ『国土の自然条件・土地利用・自然災害の備え』につなげていく。 					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	<ul style="list-style-type: none"> 身近な川である機関庫の川が、十勝帯広を流れる様々な川と合流することで流量が増えることについて理解することができた。社会科や理科で学ぶ自然界や地球全体の様子など視野を広げ、広く物事を見たり考えたりする姿があった。 					
支援者等 (複数記入可)						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等	関係団体 (漁協、農協) 等		企業	その他	
支援の概要	札内川の調査・体験活動を実施する際には、北海道エールセンターの方々に、グループ毎に指導・助言をいただくことができた。河川に関わる専門的なお話も聞くことができた。					
成果発表	成果作品			発表方法		
	スライド			グループでの調査や活動を発表		
今後の課題・展開						
<ul style="list-style-type: none"> 北海道エールセンターのご協力の基、機関庫の川と同様、十勝川支流の札内川について、3年生のときに実施した調査や体験活動を進めることができた。機関庫の川と札内川を比較・検証する意味においても、今回の活動について大きな意義がある。来年度以降も、教科横断的な学びを意識し、より広い視野をもって今後の学習に展開していく地域の地形や土地利用、防災などの学習のつながりを認識していきたい。 						

助成番号		助成事業名		学校名		
2024-7214-002		機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり		帯広市立豊成小学校		
所在地	北海道帯広市清流西1丁目1番地1	対象河川名	機関庫の川			
対象学年	5学年(88人)	主たる教科	理科			
河川教育の目標	水辺での <u>体験活動</u> を通じて、 <u>探究的な見方や考え方を</u> 育む。 <u>自分達の生活とのつながり</u> を実感し、 <u>恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を</u> 育む。					
育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。					
学習活動の内容と成果						
<p>[内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> 理科の単元「植物の発芽と成長」、家庭科の単元「ゆでて食べよう」および総合的な学習の時間「十勝の農業を体験しよう」では、卒業生が作ってくれたザリガニ堆肥の効果について検証することができた。 理科の単元「流れる水のはたらき」では、十勝川流域を模した実験装置を活用し、視覚的にイメージしながら水害のメカニズムを深く学ぶことができた。昨年度、グループでの検討の時間が足りなかった反省から、その部分の時間を多く配分し授業時間を設定した。北海道開発建設部帯広河川事務所の職員の方々と打ち合わせを行い、資料や授業展開をスムーズに進めることができた。 <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 理科室のテラスや学校農園で作っている作物について定期的に観察を行った。ウチダザリガニを活用した肥料の効果性について、植物の育ちの違いからその効果について比較し条件を揃えることの重要性を確認することができた。 水害を学ぶことに加え、自分達の生活とつなげる意味合いをしっかりと押さえながらの学習に取り組むことを意識することができた。その意義について、理科専科教諭と北海道開発建設部河川事務所の方々と共有しながら実施することができたことが大きい。作成していただいた資料を基に、全国にある防災対策を知り、私達の地域でできる河川の災害からくらしを守る方法について意欲的に学ぶことができた。 社会科の単元「自然災害を防ぐ」「私たちの生活と森林」「環境を守る私たち」の学習では、中学年で学んだ学習とのつながりを意識しながら、地域の生活とつなげる意識を高めることができた。 						
学びの創意工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <u>教科横断的な学びを意識した学習計画の実施</u> 他教科（主に理科や社会）での地形や治水・利水、気候や自然災害などの学習内容の関連を意識した学習計画を立て、<u>自然災害と自分達と生活とのつながり</u>を考えられるよう進めた。 <u>対象学年間のつながり</u> 4年生で学んだ<u>流域の概念や防災の考え方</u>から視野を広げ、<u>国土全体の自然環境や土地の利用、自然災害の備えの学び</u>につながっていく。理科や総合的な学習の時間を活用して、<u>ザリガニ堆肥の有用性</u>について検証し、次年度以降堆肥作りへの活動意欲を高めていく。 					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	<ul style="list-style-type: none"> ザリガニ堆肥の有用性やその効果について比較・検証を続けることで、実験をする上で重要な条件を揃える理科的な見方・考え方を身に付けることができた。 十勝川流域の模した起伏地図で実験を行うことは非常にイメージを膨らませやすい。水害のメカニズムについて実験を通して知ることができ、防災や減災を身近に考えることができた。 					
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等	関係団体（漁協、農協）等		企業	その他	
支援の概要	北海道開発建設部帯広河川事務所のご協力の基、十勝川流域の概要説明や水害についてのメカニズム、河川事業の説明やグループ討論の発表について感想を述べていただくことができた。					
成果発表	成果作品			発表方法		
	スライド			グループでの調査や活動を口頭で発表		
今後の課題・展開						
<ul style="list-style-type: none"> 水害に至るメカニズムを知り、流域を意識した防災や減災について思考をつなげることができた。今年度も、河川事業の説明を基に、洪水被害をなくすためにどうすればよいかについて考える授業を展開することができた。今後、支援者の協力をいただきつつ、土地利用や治水について学びを広げていきたい。また、より理解を深めるために、他学年での防災・減災の学習の取り組みを検討したい。 						

助成番号	助成事業名		学校名			
2024-7214-002	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり		帯広市立豊成小学校			
所在地	北海道帯広市清流西1丁目1番地1	対象河川名	機関庫の川			
対象学年	6学年(114人)	主たる教科	理科			
河川教育の目標	水辺での <u>体験活動</u> を通じて、 <u>探究的な見方や考え方を</u> 育む。 <u>自分達の生活とのつながり</u> を実感し、 <u>恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を</u> 育む。					
育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。					
学習活動の内容と成果						
<p>[内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの学年で駆除してきたウチダザリガニを堆肥にする活動を行った。出来上がったザリガニ堆肥は、3月7日(金)に実施した「6年生を送る会」で在校生に引き継ぎ、次年度の農園活動やその他教科の学習で活用できるように豊成小学校の伝統をつなげていくことができた。 理科の単元「大地のつくり」では、機関庫の川の礫の様子を学習材として、流れる水のはたらきによる地層のでき方について考える学習を展開した。 理科の単元「自然とともに生きる」では、これまで学んできた6年間の環境にかかわる学びをつなげて振り返ることができた。 <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ウチダザリガニを堆肥化する学習の前に、外来種であるウチダザリガニの存在やその命の在り方について十分に話し合う時間を設けることができた。命を扱う難しい課題だからこそ、例年6年生の課題として取り組んでいる。豊成小学校の伝統を受け継ぐことを意識しながら学習に臨む様子が多く見られた。 十勝でとれた地層のモデルから地層のでき方について考えることができた。機関庫の川をはじめ、堆積の仕方から他の地域との比較についても子どもたち同士で交流することができた。 						
学びの創意工夫点	<ul style="list-style-type: none"> 対象学年間の<u>つながり</u> 理科の単元「大地のつくり」は、5年生で学ぶ「流れる水のはたらき」と結びつきが強く、「生物どうしのつながり」については、3年生の総合的な学習の時間を想起することができる。 豊成小学校の伝統となっているザリガニ堆肥作りは、<u>6年間の環境にかかわる学びが機関庫の川によって結びついていることを認識できる活動</u>であり、<u>これから自分が環境とどのように関わって生きていくかを考える機会</u>となっている。 					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	<ul style="list-style-type: none"> ザリガニ堆肥づくりの振り返りでは、難しい課題であるものの、命のつながりを意識して取り組む様子や豊成小学校の伝統を受け継ぎ誇りに思う様子、下級生のために責任と誇りをもって頑張る姿に伝わるものが多く感じられた。 					
支援者等 (複数記入可)						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等		関係団体 (漁協、農協) 等		企業	その他
支援の概要	例年、講師としてお招きしている帯広で農家をされている専門家の方々から、ザリガニ堆肥の有用性についてお話する時間を多くとっていただき、子どもたちに改めてその有用性を確認することができる有意義な機会となった。					
成果発表	成果作品			発表方法		
	スライド			グループによる調査や活動を口頭で報告		
今後の課題・展開						
<ul style="list-style-type: none"> 機関庫の川を学習材として6年間学んできた環境の学習を、今後の生き方や考え方に生かして行ってほしい。そのためには、卒業を迎える際に、これから自分が地域の環境を土台に、環境全体についてどのように関わっていくことが大切なのかについて確認したり考えたりする機会を設ける場の設定が必要である。 						

河川教育計画書【複数学年1年生】

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり				学校名	帯広市立豊成小学校		助成番号	2024-7214-002																																																																																							
2.河川教育の目標	水辺での体験活動を通して、探究的な見方や考え方を育む。自分達の生活とのつながりを実感し、恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。																																																																																															
3.育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。																																																																																															
4.学年／人数	第1学年／89人																																																																																															
5.単元構想	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">単元目標</td> <td colspan="2">単元名:いくぞ!がっこうたんけんたい</td> <td colspan="2">単元名:げんきにそだて わたしのはな①</td> <td colspan="2">単元名:なつとなかよし</td> <td colspan="2">単元名:げんきにそだて わたしのはな②</td> <td colspan="4">単元名:ふゆとなかよし</td> </tr> <tr> <td colspan="2">機関庫の川の周りの様子を観察しよう</td> <td colspan="2">種をまいて、世話をしよう</td> <td colspan="2">機関庫の川に親しみ、楽しかったことや見つけたことを紹介しよう</td> <td colspan="2">命のつながりを感じて食べよう</td> <td colspan="4">ふゆならではの遊びを体験し、季節の違いを感じよう</td> </tr> <tr> <td colspan="2">主たる教科:生活 関連教科:国語 2時間</td> <td colspan="2">主たる教科:生活 関連教科:国語・道徳 4時間</td> <td colspan="2">主たる教科:生活 関連教科:国語・図工 4時間</td> <td colspan="2">主たる教科:生活 関連教科:国語 2時間</td> <td colspan="4">主たる教科:生活 関連教科:国語・図工 4時間</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主な学習活動</td> <td colspan="2">周辺環境の観察 ・学校の裏を流れる川が「機関庫の川」であることを知る。 ・川で学習する時の約束事や危険を知る。 ・機関庫の川のまわりを観察する。(水の流れ、周りの植物、生き物など)</td> <td colspan="2">環境サイクルの実感 ・機関庫の川で駆除したウチダザリガニで作った有機肥料を活用し、作物(枝豆)の栽培を行う。 ・なぜ、有機肥料を入れるのか、どのように枝豆ができていくのかを考える。</td> <td colspan="2">川の遊びの体験・生き物の観察・駆除 ・機関庫の川に入り、川の流れを体感、冷たさや水圧、周囲の草花や川底の石、土の様子などを五感で知る。 ・帯広北高等学校の生徒とともに川に入り、安全な川遊びについて知る。一緒に見つけたり、捕まえたりした生き物を観察し、記録する。 ・外来種であるウチダザリガニの駆除を行う。 ・見つけたものや楽しかったことを交流し、発表する。</td> <td colspan="2">環境サイクルの実感 ・機関庫の川で駆除したウチダザリガニで作った有機肥料を活用して野菜を育てたことを確認する。 ・ザリガニ堆肥は入った畑で収穫した作物(枝豆)を食べることで、自分達の命のつながりを実感する。</td> <td colspan="4">氷のお面作り ・雪や氷と親しむ活動の中で、夏には川遊びをしたことを思い出し、季節の違いを感じる。 ・季節による水の変化について関心をもち、冬の機関庫の川の様子を想像する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">評価の観点</td> <td colspan="2">季節によって、川や生き物の様子の変化していることに気付くことができる。</td> <td colspan="2">自分たちの身近にある「川」の存在を知ること、興味や関心を広げ、主体的に学ぶ力を身に付ける。</td> <td colspan="2">目的を理解し、周囲と協力しながら主体的に活動している。</td> <td colspan="2">自分の生活と身近な自然のつながりをとらえることができる。</td> <td colspan="2">目的を理解し、周囲と協力しながら川と生き物と主体的に関わることができる。</td> <td colspan="2">高校生とともに活動することで、良好な人間関係を形成する力を身に付ける。先輩に憧れ、なりたい自分を思い描く。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">学習したことを絵や文で表現することができる。</td> <td colspan="2">自然の恵みや命の大切さを感じ取り、これからの自分の生活に生かそうとする。</td> <td colspan="2">目的を理解し、周囲と協力しながら主体的に活動している。</td> <td colspan="2">自分の生活と身近な自然のつながりをとらえることができる。</td> </tr> </tbody> </table>												月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	単元目標	単元名:いくぞ!がっこうたんけんたい		単元名:げんきにそだて わたしのはな①		単元名:なつとなかよし		単元名:げんきにそだて わたしのはな②		単元名:ふゆとなかよし				機関庫の川の周りの様子を観察しよう		種をまいて、世話をしよう		機関庫の川に親しみ、楽しかったことや見つけたことを紹介しよう		命のつながりを感じて食べよう		ふゆならではの遊びを体験し、季節の違いを感じよう				主たる教科:生活 関連教科:国語 2時間		主たる教科:生活 関連教科:国語・道徳 4時間		主たる教科:生活 関連教科:国語・図工 4時間		主たる教科:生活 関連教科:国語 2時間		主たる教科:生活 関連教科:国語・図工 4時間				主な学習活動	周辺環境の観察 ・学校の裏を流れる川が「機関庫の川」であることを知る。 ・川で学習する時の約束事や危険を知る。 ・機関庫の川のまわりを観察する。(水の流れ、周りの植物、生き物など)		環境サイクルの実感 ・機関庫の川で駆除したウチダザリガニで作った有機肥料を活用し、作物(枝豆)の栽培を行う。 ・なぜ、有機肥料を入れるのか、どのように枝豆ができていくのかを考える。		川の遊びの体験・生き物の観察・駆除 ・機関庫の川に入り、川の流れを体感、冷たさや水圧、周囲の草花や川底の石、土の様子などを五感で知る。 ・帯広北高等学校の生徒とともに川に入り、安全な川遊びについて知る。一緒に見つけたり、捕まえたりした生き物を観察し、記録する。 ・外来種であるウチダザリガニの駆除を行う。 ・見つけたものや楽しかったことを交流し、発表する。		環境サイクルの実感 ・機関庫の川で駆除したウチダザリガニで作った有機肥料を活用して野菜を育てたことを確認する。 ・ザリガニ堆肥は入った畑で収穫した作物(枝豆)を食べることで、自分達の命のつながりを実感する。		氷のお面作り ・雪や氷と親しむ活動の中で、夏には川遊びをしたことを思い出し、季節の違いを感じる。 ・季節による水の変化について関心をもち、冬の機関庫の川の様子を想像する。				評価の観点	季節によって、川や生き物の様子の変化していることに気付くことができる。		自分たちの身近にある「川」の存在を知ること、興味や関心を広げ、主体的に学ぶ力を身に付ける。		目的を理解し、周囲と協力しながら主体的に活動している。		自分の生活と身近な自然のつながりをとらえることができる。		目的を理解し、周囲と協力しながら川と生き物と主体的に関わることができる。		高校生とともに活動することで、良好な人間関係を形成する力を身に付ける。先輩に憧れ、なりたい自分を思い描く。		学習したことを絵や文で表現することができる。		自然の恵みや命の大切さを感じ取り、これからの自分の生活に生かそうとする。		目的を理解し、周囲と協力しながら主体的に活動している。		自分の生活と身近な自然のつながりをとらえることができる。	
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																																																				
単元目標	単元名:いくぞ!がっこうたんけんたい		単元名:げんきにそだて わたしのはな①		単元名:なつとなかよし		単元名:げんきにそだて わたしのはな②		単元名:ふゆとなかよし																																																																																							
	機関庫の川の周りの様子を観察しよう		種をまいて、世話をしよう		機関庫の川に親しみ、楽しかったことや見つけたことを紹介しよう		命のつながりを感じて食べよう		ふゆならではの遊びを体験し、季節の違いを感じよう																																																																																							
	主たる教科:生活 関連教科:国語 2時間		主たる教科:生活 関連教科:国語・道徳 4時間		主たる教科:生活 関連教科:国語・図工 4時間		主たる教科:生活 関連教科:国語 2時間		主たる教科:生活 関連教科:国語・図工 4時間																																																																																							
主な学習活動	周辺環境の観察 ・学校の裏を流れる川が「機関庫の川」であることを知る。 ・川で学習する時の約束事や危険を知る。 ・機関庫の川のまわりを観察する。(水の流れ、周りの植物、生き物など)		環境サイクルの実感 ・機関庫の川で駆除したウチダザリガニで作った有機肥料を活用し、作物(枝豆)の栽培を行う。 ・なぜ、有機肥料を入れるのか、どのように枝豆ができていくのかを考える。		川の遊びの体験・生き物の観察・駆除 ・機関庫の川に入り、川の流れを体感、冷たさや水圧、周囲の草花や川底の石、土の様子などを五感で知る。 ・帯広北高等学校の生徒とともに川に入り、安全な川遊びについて知る。一緒に見つけたり、捕まえたりした生き物を観察し、記録する。 ・外来種であるウチダザリガニの駆除を行う。 ・見つけたものや楽しかったことを交流し、発表する。		環境サイクルの実感 ・機関庫の川で駆除したウチダザリガニで作った有機肥料を活用して野菜を育てたことを確認する。 ・ザリガニ堆肥は入った畑で収穫した作物(枝豆)を食べることで、自分達の命のつながりを実感する。		氷のお面作り ・雪や氷と親しむ活動の中で、夏には川遊びをしたことを思い出し、季節の違いを感じる。 ・季節による水の変化について関心をもち、冬の機関庫の川の様子を想像する。																																																																																							
	評価の観点	季節によって、川や生き物の様子の変化していることに気付くことができる。		自分たちの身近にある「川」の存在を知ること、興味や関心を広げ、主体的に学ぶ力を身に付ける。		目的を理解し、周囲と協力しながら主体的に活動している。		自分の生活と身近な自然のつながりをとらえることができる。		目的を理解し、周囲と協力しながら川と生き物と主体的に関わることができる。		高校生とともに活動することで、良好な人間関係を形成する力を身に付ける。先輩に憧れ、なりたい自分を思い描く。																																																																																				
学習したことを絵や文で表現することができる。		自然の恵みや命の大切さを感じ取り、これからの自分の生活に生かそうとする。		目的を理解し、周囲と協力しながら主体的に活動している。		自分の生活と身近な自然のつながりをとらえることができる。																																																																																										
人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力																																																																																																

河川教育計画書【複数学年2年生】

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2024-7214-002							
2.河川教育の目標	水辺での体験活動を通して、探究的な見方や考え方を育む。自分達の生活とのつながりを実感し、恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。											
3.育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。											
4.学年／人数	第2学年／84名											
5.単元構想												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元目標	単元名：大きくそだてわたしの野さい 川のめぐみを活用して、種や苗を植えよう 主たる教科：生活 関連教科：国語 3時間		単元名：みんな生きている 機関庫の川に棲む生き物を捕まえて観察しよう 主たる教科：生活 関連教科：国語・図工 7時間		単元名：大きくそだてわたしの野さい 命のつながりを感じながら、実った野菜を食べよう 主たる教科：生活 関連教科：国語 4時間		単元名：みんな生きている 冬の機関庫の川の様子を観察しよう 主たる教科：生活 関連教科：国語・図工 2時間					
主な学習活動	環境サイクルの実感 ・機関庫の川で駆除したウチダザリガニで作った肥料を活用して、野菜(ピーマン・ナス・ミニトマト・サツマイモなど)の栽培を行う。		生き物の観察・採捕・駆除 ・帯広北高等学校の生徒とともに、機関庫の川の生き物を捕まえたり、観察したりする。 ・捕まえた生き物を水槽で飼育し、観察して気付いたことなどを記録する。 ・外来種であるウチダザリガニの駆除をする。		環境サイクルの実感 ・機関庫の川で駆除したウチダザリガニで作った肥料が入った土で育てた野菜を収穫する。 ・収穫した野菜を食べることで、自分達の命とのつながりを実感する。		機関庫の川の観察 ・冬の機関庫の川を観察し、その様子をとらえる。 ・冬の川に生き物がいるのかを考え、交流する。					
評価の観点	目的を理解し、ルールや安全に気を付けて、周囲と協力しながら主体的に活動に参加しようとしている。		季節によって変化する川や生き物の様子を感じとり、絵や文で表現している。	高校生とともに活動することで、良好な人間関係を形成する力を身に付ける。先輩に憧れ、なりたい自分を思い描く。	目的を理解し、ルールや安全に気を付けて周囲と協力しながら川や生き物と主体的にかかわる。		自然の恵みや厳しさ、命の大切さを感じ取っている。		季節によって変化する川の様子を感じとり、絵や文で表現している。			
人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力												

河川教育計画書【複数学年3年生】

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2024-7214-002																																																																				
2.河川教育の目標	水辺での体験活動を通じて、探究的な見方や考え方を育む。自分達の生活とのつながりを実感し、恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。																																																																								
3.育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。																																																																								
4.学年／人数	第3学年／101名																																																																								
5.単元構想	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th style="width: 5%;">月</th> <th style="width: 10%;">4</th> <th style="width: 10%;">5</th> <th style="width: 10%;">6</th> <th style="width: 10%;">7</th> <th style="width: 10%;">8</th> <th style="width: 10%;">9</th> <th style="width: 10%;">10</th> <th style="width: 10%;">11</th> <th style="width: 10%;">12</th> <th style="width: 10%;">1</th> <th style="width: 10%;">2</th> <th style="width: 10%;">3</th> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">単元目標</td> <td colspan="3"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">単元名：機関庫の川と友だち①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">環境調査をもとに個人の活動計画を立てよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:国語・理科・社会 16時間</div> </td> <td colspan="3"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">単元名：機関庫の川と友だち②</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">調査結果と課題設定 自分の立てた計画を実行しよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:国語・理科・社会 21時間</div> </td> <td colspan="3"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">単元名：機関庫の川と友だち③</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">学習のまとめと報告会の実施 機関庫の川について学習したことをいろいろな人に知ってもらい、機関庫の川の未来について一緒に考えよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:国語・理科・社会 14時間</div> </td> </tr> <tr> <td colspan="12" style="padding: 5px;"> <p>サケ・ニホンザリガニの繁殖・飼育【通年】</p> <p>・機関庫の川を再現した水槽で、専門家のサポートを受けながら、サケとニホンザリガニの繁殖・飼育を行う。・機関庫の川に生息しているサケの仲間や、在来種のニホンザリガニを飼育することで、川や環境保全への関心を高め、児童の探究的な学習の保障につなげる。</p> </td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">主な学習活動</td> <td style="width: 10%; padding: 5px;">オリエンテーション 学習計画を立てる。</td> <td colspan="3" style="padding: 5px;"> 調査活動と課題設定 ・機関庫の川と札内川の調査を行う。(水質調査、流速調査、周辺環境の調査など) ・調査結果をもとに現状を分析し、課題設定を行うとともに、個人(グループ)の学習計画(活動計画)を立てる。 </td> <td colspan="3" style="padding: 5px;"> 調査結果と課題設定 ・機関庫の川の未来を見つめ、個人やグループで立てた計画を実施し、新たな気付きや課題を見つける。(外来種の駆除活動、清掃活動、環境保全の啓発活動など) </td> <td colspan="3" style="padding: 5px;"> 学習のまとめと報告会の実施 ・機関庫の川の学習のまとめをし、保護者や大学の先生、地域や行政を対象に報告会を開く。 (自分たちの活動報告および機関庫の川をより良くしようとするための提案をしたり、課題を伝えたりして、意見やアドバイスをもらい、次年度に引き継ぐ) </td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価の観点</td> <td style="padding: 5px;">身近にある川について、客観的に調査する方法を知ることができる。</td> <td style="padding: 5px;">調査活動を通して、川の現状や課題を的確に捉えている。</td> <td style="padding: 5px;">活動を通して気付いたことをもとに、学習の課題を設定することができる。</td> <td style="padding: 5px;">継続した観察を通して、生き物の生態や変化をとらえその後の学習に生かしている。</td> <td colspan="3" style="padding: 5px;">課題の解決策を自分なりの視点や方法で考えることができる。</td> <td style="padding: 5px;">学習の成果と課題を的確にまとめ、課題解決を目的として、効果的に発信することができる。</td> <td style="padding: 5px;">目的を認識し、周囲と協力しながら主体的に活動している。</td> </tr> <tr> <td colspan="12" style="text-align: center; padding: 5px;">人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力</td> </tr> </table>					月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	単元目標	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">単元名：機関庫の川と友だち①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">環境調査をもとに個人の活動計画を立てよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:国語・理科・社会 16時間</div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">単元名：機関庫の川と友だち②</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">調査結果と課題設定 自分の立てた計画を実行しよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:国語・理科・社会 21時間</div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">単元名：機関庫の川と友だち③</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">学習のまとめと報告会の実施 機関庫の川について学習したことをいろいろな人に知ってもらい、機関庫の川の未来について一緒に考えよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:国語・理科・社会 14時間</div>			<p>サケ・ニホンザリガニの繁殖・飼育【通年】</p> <p>・機関庫の川を再現した水槽で、専門家のサポートを受けながら、サケとニホンザリガニの繁殖・飼育を行う。・機関庫の川に生息しているサケの仲間や、在来種のニホンザリガニを飼育することで、川や環境保全への関心を高め、児童の探究的な学習の保障につなげる。</p>												主な学習活動	オリエンテーション 学習計画を立てる。	調査活動と課題設定 ・機関庫の川と札内川の調査を行う。(水質調査、流速調査、周辺環境の調査など) ・調査結果をもとに現状を分析し、課題設定を行うとともに、個人(グループ)の学習計画(活動計画)を立てる。			調査結果と課題設定 ・機関庫の川の未来を見つめ、個人やグループで立てた計画を実施し、新たな気付きや課題を見つける。(外来種の駆除活動、清掃活動、環境保全の啓発活動など)			学習のまとめと報告会の実施 ・機関庫の川の学習のまとめをし、保護者や大学の先生、地域や行政を対象に報告会を開く。 (自分たちの活動報告および機関庫の川をより良くしようとするための提案をしたり、課題を伝えたりして、意見やアドバイスをもらい、次年度に引き継ぐ)			評価の観点	身近にある川について、客観的に調査する方法を知ることができる。	調査活動を通して、川の現状や課題を的確に捉えている。	活動を通して気付いたことをもとに、学習の課題を設定することができる。	継続した観察を通して、生き物の生態や変化をとらえその後の学習に生かしている。	課題の解決策を自分なりの視点や方法で考えることができる。			学習の成果と課題を的確にまとめ、課題解決を目的として、効果的に発信することができる。	目的を認識し、周囲と協力しながら主体的に活動している。	人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力											
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																													
単元目標	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">単元名：機関庫の川と友だち①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">環境調査をもとに個人の活動計画を立てよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:国語・理科・社会 16時間</div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">単元名：機関庫の川と友だち②</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">調査結果と課題設定 自分の立てた計画を実行しよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:国語・理科・社会 21時間</div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">単元名：機関庫の川と友だち③</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">学習のまとめと報告会の実施 機関庫の川について学習したことをいろいろな人に知ってもらい、機関庫の川の未来について一緒に考えよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:国語・理科・社会 14時間</div>																																																																		
	<p>サケ・ニホンザリガニの繁殖・飼育【通年】</p> <p>・機関庫の川を再現した水槽で、専門家のサポートを受けながら、サケとニホンザリガニの繁殖・飼育を行う。・機関庫の川に生息しているサケの仲間や、在来種のニホンザリガニを飼育することで、川や環境保全への関心を高め、児童の探究的な学習の保障につなげる。</p>																																																																								
	主な学習活動	オリエンテーション 学習計画を立てる。	調査活動と課題設定 ・機関庫の川と札内川の調査を行う。(水質調査、流速調査、周辺環境の調査など) ・調査結果をもとに現状を分析し、課題設定を行うとともに、個人(グループ)の学習計画(活動計画)を立てる。			調査結果と課題設定 ・機関庫の川の未来を見つめ、個人やグループで立てた計画を実施し、新たな気付きや課題を見つける。(外来種の駆除活動、清掃活動、環境保全の啓発活動など)			学習のまとめと報告会の実施 ・機関庫の川の学習のまとめをし、保護者や大学の先生、地域や行政を対象に報告会を開く。 (自分たちの活動報告および機関庫の川をより良くしようとするための提案をしたり、課題を伝えたりして、意見やアドバイスをもらい、次年度に引き継ぐ)																																																																
評価の観点		身近にある川について、客観的に調査する方法を知ることができる。	調査活動を通して、川の現状や課題を的確に捉えている。	活動を通して気付いたことをもとに、学習の課題を設定することができる。	継続した観察を通して、生き物の生態や変化をとらえその後の学習に生かしている。	課題の解決策を自分なりの視点や方法で考えることができる。			学習の成果と課題を的確にまとめ、課題解決を目的として、効果的に発信することができる。	目的を認識し、周囲と協力しながら主体的に活動している。																																																															
	人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力																																																																								

河川教育計画書【複数学年4年生】

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり		学校名	帯広市立豊成小学校		助成番号	2024-7214-002																																																																											
2.河川教育の目標	身近な自然環境に関心を持ち、探究的な見方や考え方を育む。自分達の生活とのつながりを実感し、恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。																																																																																	
3.育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。																																																																																	
4.学年／人数	第4学年／121名																																																																																	
5.単元構想	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">単元目標</td> <td> 単元名：地面を流れる水の行方 ・雨水の流れや、水の浸みこみ方は、土の粒の大きさによって違いがあるかを調べよう。 主たる教科：理科 関連教科：社会 6時間 </td> <td> 単元名：水はどこか ・私たちの飲み水がどこからきているのかを知ろう。 ・機関庫の川が流れ込む札内川の水域について調べよう。 主たる教科：社会 関連教科：理科 10時間 </td> <td> 単元名：水はどこから（郷土体験学習） ・稲田浄水場（札内川）、十勝川流域下水浄化センターの役割について調べよう。 主たる教科：社会 関連教科：理科 2時間 </td> <td> 単元名：自然災害からくらしを守る（バス学習） ・エールセンターを利用し、札内川と機関庫の川との共通点や相違点を調べよう。 主たる教科：社会 関連教科：理科 2時間 </td> <td> 単元名：自然災害からくらしを守る ・風水害が自分達の生活に与える影響と市の取組について調べよう。 主たる教科：社会 関連教科：理科 10時間 </td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td> 単元名：みずのゆくえ ・自然の中をめぐる水の様子をまとめよう。 主たる教科：理科 関連教科：社会 5時間 </td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> ・水の流れと地面の傾きにはどのような関係があるのか根拠のある予想を立て、観察や実験を通して調べる。 ・土の種類と浸みこみ方にはどのような関係があるのか観察や実験を通して調べる。 ・水の流れや浸みこみ方の仕組みと自然災害や土地利用の関係を考える。 </td> <td> ・機関庫の川が流れ込む札内川の水域全体の様子や地形から、その良質な水を作り出す要因を考えるとともに、それらの維持管理などについて、自らの生活と結び付けながら考える。 </td> <td> ・稲田浄水場（札内川）と、十勝川流域下水浄化センターの施設を見学して、気付いたことや分かったこと、考えたことなどをまとめ、発表する。 ・取水口や機関庫の川との合流地点を確認することで、これまでの学習とつなげ、自らの生活と結びつけて考える。 </td> <td> ・エールセンターの施設を利用して、札内川の生物調査、水質検査、隊列を組んでの横断体験や川流れ体験などを行う。 ・調査や検査を通して、機関庫の川との共通点や相違点に気づき、川の怖さやいざというときの知識について体感し、正しい行動について考える。 </td> <td> ・大型地図を利用し、水があふれる仕組みを理解し、どのようなところがあふれやすいかを考える。また、風水害からくらしを守る市の取組について調べ、自らの生活と結び付けて考える。 ・風水害にかかわるニュースなどから、身近な川の氾濫の可能性などに興味をもって調べる。 ・出前授業「親子防災教室」を体験し、防災、減災についての意識を高める。 ・札内川に入り、川の渡り方や安全な流れ方について考える。 </td> <td> ・水の三態を理解し、自然界を循環する水の様子について興味をもって調べ、イメージを膨らませる。 ・地球の水を守っていくために、自分達にできることについて考える。 </td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主な学習活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 他者とかかわり合いながら調べたり、実験をしたりしている。 </td> <td> 根拠のある予想をし、結果を分かりやすく記録している。 </td> <td> 防災や減災への意欲を高める。 </td> <td> 恵まれた自然環境を理解し、地域に対する誇りをもち、その環境を保全・維持していこうと考えている。 </td> <td> 自分で得た情報から、その要因や根拠を探究している。 </td> <td> 施設見学やそこで働く人の話から、課題解決のための情報を収集し、興味のあること、考えたことについてまとめ、表現している。 </td> <td> 調べたことから課題を見だし、自らの生活と関連付けて考えている。 </td> <td> 調べて得た情報を整理し、自分たちのくらしと結びつけて考えたことをまとめ、表現している。 </td> <td> 札内川での体験から、防災や減災について考えたことを表現している。 </td> <td> 調べて得た情報を整理し、自分たちのくらしと結びつけて考えたことをまとめ、表現している。 </td> <td> 防災教室での体験から、防災や減災について考えたことを表現している。 </td> <td> 調べて得た情報を整理し、自分たちのくらしを結びつけて考えたことをまとめ、表現している。 </td> <td> 身近なくらしから、地球の水を守っていくという環境への思いを持っている。 </td> </tr> <tr> <td>評価の観点</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>											月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	単元目標	単元名：地面を流れる水の行方 ・雨水の流れや、水の浸みこみ方は、土の粒の大きさによって違いがあるかを調べよう。 主たる教科：理科 関連教科：社会 6時間	単元名：水はどこか ・私たちの飲み水がどこからきているのかを知ろう。 ・機関庫の川が流れ込む札内川の水域について調べよう。 主たる教科：社会 関連教科：理科 10時間	単元名：水はどこから（郷土体験学習） ・稲田浄水場（札内川）、十勝川流域下水浄化センターの役割について調べよう。 主たる教科：社会 関連教科：理科 2時間	単元名：自然災害からくらしを守る（バス学習） ・エールセンターを利用し、札内川と機関庫の川との共通点や相違点を調べよう。 主たる教科：社会 関連教科：理科 2時間	単元名：自然災害からくらしを守る ・風水害が自分達の生活に与える影響と市の取組について調べよう。 主たる教科：社会 関連教科：理科 10時間					単元名：みずのゆくえ ・自然の中をめぐる水の様子をまとめよう。 主たる教科：理科 関連教科：社会 5時間			・水の流れと地面の傾きにはどのような関係があるのか根拠のある予想を立て、観察や実験を通して調べる。 ・土の種類と浸みこみ方にはどのような関係があるのか観察や実験を通して調べる。 ・水の流れや浸みこみ方の仕組みと自然災害や土地利用の関係を考える。	・機関庫の川が流れ込む札内川の水域全体の様子や地形から、その良質な水を作り出す要因を考えるとともに、それらの維持管理などについて、自らの生活と結び付けながら考える。	・稲田浄水場（札内川）と、十勝川流域下水浄化センターの施設を見学して、気付いたことや分かったこと、考えたことなどをまとめ、発表する。 ・取水口や機関庫の川との合流地点を確認することで、これまでの学習とつなげ、自らの生活と結びつけて考える。	・エールセンターの施設を利用して、札内川の生物調査、水質検査、隊列を組んでの横断体験や川流れ体験などを行う。 ・調査や検査を通して、機関庫の川との共通点や相違点に気づき、川の怖さやいざというときの知識について体感し、正しい行動について考える。	・大型地図を利用し、水があふれる仕組みを理解し、どのようなところがあふれやすいかを考える。また、風水害からくらしを守る市の取組について調べ、自らの生活と結び付けて考える。 ・風水害にかかわるニュースなどから、身近な川の氾濫の可能性などに興味をもって調べる。 ・出前授業「親子防災教室」を体験し、防災、減災についての意識を高める。 ・札内川に入り、川の渡り方や安全な流れ方について考える。	・水の三態を理解し、自然界を循環する水の様子について興味をもって調べ、イメージを膨らませる。 ・地球の水を守っていくために、自分達にできることについて考える。	主な学習活動													他者とかかわり合いながら調べたり、実験をしたりしている。	根拠のある予想をし、結果を分かりやすく記録している。	防災や減災への意欲を高める。	恵まれた自然環境を理解し、地域に対する誇りをもち、その環境を保全・維持していこうと考えている。	自分で得た情報から、その要因や根拠を探究している。	施設見学やそこで働く人の話から、課題解決のための情報を収集し、興味のあること、考えたことについてまとめ、表現している。	調べたことから課題を見だし、自らの生活と関連付けて考えている。	調べて得た情報を整理し、自分たちのくらしと結びつけて考えたことをまとめ、表現している。	札内川での体験から、防災や減災について考えたことを表現している。	調べて得た情報を整理し、自分たちのくらしと結びつけて考えたことをまとめ、表現している。	防災教室での体験から、防災や減災について考えたことを表現している。	調べて得た情報を整理し、自分たちのくらしを結びつけて考えたことをまとめ、表現している。	身近なくらしから、地球の水を守っていくという環境への思いを持っている。	評価の観点												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																																						
単元目標	単元名：地面を流れる水の行方 ・雨水の流れや、水の浸みこみ方は、土の粒の大きさによって違いがあるかを調べよう。 主たる教科：理科 関連教科：社会 6時間	単元名：水はどこか ・私たちの飲み水がどこからきているのかを知ろう。 ・機関庫の川が流れ込む札内川の水域について調べよう。 主たる教科：社会 関連教科：理科 10時間	単元名：水はどこから（郷土体験学習） ・稲田浄水場（札内川）、十勝川流域下水浄化センターの役割について調べよう。 主たる教科：社会 関連教科：理科 2時間	単元名：自然災害からくらしを守る（バス学習） ・エールセンターを利用し、札内川と機関庫の川との共通点や相違点を調べよう。 主たる教科：社会 関連教科：理科 2時間	単元名：自然災害からくらしを守る ・風水害が自分達の生活に与える影響と市の取組について調べよう。 主たる教科：社会 関連教科：理科 10時間					単元名：みずのゆくえ ・自然の中をめぐる水の様子をまとめよう。 主たる教科：理科 関連教科：社会 5時間																																																																								
	・水の流れと地面の傾きにはどのような関係があるのか根拠のある予想を立て、観察や実験を通して調べる。 ・土の種類と浸みこみ方にはどのような関係があるのか観察や実験を通して調べる。 ・水の流れや浸みこみ方の仕組みと自然災害や土地利用の関係を考える。	・機関庫の川が流れ込む札内川の水域全体の様子や地形から、その良質な水を作り出す要因を考えるとともに、それらの維持管理などについて、自らの生活と結び付けながら考える。	・稲田浄水場（札内川）と、十勝川流域下水浄化センターの施設を見学して、気付いたことや分かったこと、考えたことなどをまとめ、発表する。 ・取水口や機関庫の川との合流地点を確認することで、これまでの学習とつなげ、自らの生活と結びつけて考える。	・エールセンターの施設を利用して、札内川の生物調査、水質検査、隊列を組んでの横断体験や川流れ体験などを行う。 ・調査や検査を通して、機関庫の川との共通点や相違点に気づき、川の怖さやいざというときの知識について体感し、正しい行動について考える。	・大型地図を利用し、水があふれる仕組みを理解し、どのようなところがあふれやすいかを考える。また、風水害からくらしを守る市の取組について調べ、自らの生活と結び付けて考える。 ・風水害にかかわるニュースなどから、身近な川の氾濫の可能性などに興味をもって調べる。 ・出前授業「親子防災教室」を体験し、防災、減災についての意識を高める。 ・札内川に入り、川の渡り方や安全な流れ方について考える。	・水の三態を理解し、自然界を循環する水の様子について興味をもって調べ、イメージを膨らませる。 ・地球の水を守っていくために、自分達にできることについて考える。																																																																												
主な学習活動																																																																																		
	他者とかかわり合いながら調べたり、実験をしたりしている。	根拠のある予想をし、結果を分かりやすく記録している。	防災や減災への意欲を高める。	恵まれた自然環境を理解し、地域に対する誇りをもち、その環境を保全・維持していこうと考えている。	自分で得た情報から、その要因や根拠を探究している。	施設見学やそこで働く人の話から、課題解決のための情報を収集し、興味のあること、考えたことについてまとめ、表現している。	調べたことから課題を見だし、自らの生活と関連付けて考えている。	調べて得た情報を整理し、自分たちのくらしと結びつけて考えたことをまとめ、表現している。	札内川での体験から、防災や減災について考えたことを表現している。	調べて得た情報を整理し、自分たちのくらしと結びつけて考えたことをまとめ、表現している。	防災教室での体験から、防災や減災について考えたことを表現している。	調べて得た情報を整理し、自分たちのくらしを結びつけて考えたことをまとめ、表現している。	身近なくらしから、地球の水を守っていくという環境への思いを持っている。																																																																					
評価の観点																																																																																		
	人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力																																																																																	

河川教育計画書【複数学年5年生】

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり				学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2024-7214-002																																																																																																
2.河川教育の目標	身近な自然環境に関心を持ち、探究的な見方や考え方を育む。自分達の生活とのつながりを実感し、恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。																																																																																																							
3.育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。																																																																																																							
4.学年／人数	第5学年／89名																																																																																																							
5.単元構想	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th style="width: 5%;">月</th> <th style="width: 10%;">4</th> <th style="width: 10%;">5</th> <th style="width: 10%;">6</th> <th style="width: 10%;">7</th> <th style="width: 10%;">8</th> <th style="width: 10%;">9</th> <th style="width: 10%;">10</th> <th style="width: 10%;">11</th> <th style="width: 10%;">12</th> <th style="width: 10%;">1</th> <th style="width: 10%;">2</th> <th style="width: 10%;">3</th> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">単元目標</td> <td>単元名:植物の発芽と成長</td> <td>単元名:メダカのたんじょう</td> <td colspan="3">単元名:十勝の農業を体験しよう</td> <td colspan="3">単元名:流れる水のはたらき</td> <td colspan="4">単元名:自然災害を防ぐ(風水害の取組)</td> </tr> <tr> <td>ウチダザリガニを使った有機肥料の効果を検証しよう。</td> <td>生物の共通性、多様性の学びから、外国から持ち込まれた生物について考えよう(外来種)。</td> <td colspan="3">ウチダザリガニを活用した有機肥料を生かし、農園での栽培活動をしよう。</td> <td colspan="3">川の上流と下流の川幅や水の流れの速さ、河原の石の形や大きさなどを調べよう。流れる水の速さや量が変わること起こる災害があることや、人々が災害からくらしを守る取組について考えよう。十勝川支流合流部において、洪水被害をなくすにはどうすればよいか考え</td> <td colspan="4">風水害はどのような時に起こり、被害を減らすためにそのような取組があるかを調べよう。</td> </tr> <tr> <td>主たる教科:理科 関連教科:総合的な学習の時間 4時間</td> <td>主たる教科:理科 関連教科:総合的な学習の時間 1時間</td> <td colspan="3">主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:理科 12時間</td> <td colspan="3">主たる教科:理科 関連教科:社会 11時間</td> <td colspan="4">主たる教科:社会 関連教科:総合的な学習の時間 4時間</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">主な学習活動</td> <td>・機関庫の川で駆除したウチダザリガニを活用した有機肥料の効果を検証し、データをまとめる。(インゲン豆の観察)</td> <td>・生物の多様性を脅かす外来種について知り、身近な外来種問題を考える。</td> <td colspan="3">・野菜の栽培方法を学ぶ中で、ウチダザリガニを使った有機肥料の効果的な活用方法について知る。(農家の方からの指導) ・十勝の農業と、水環境を含めた様々な自然環境とのかかわりについて学び、その重要性について考える。十勝が「農業王国」と呼ばれる理由やその魅力、可能性などについてまとめ、発信する。</td> <td colspan="3">・流れる水と地面の様子、水の量が変化した時のはたらきについて予想や仮説をもち、実験して調べる。 ・機関庫の川の様子から浸食・堆積・運搬についてとらえ、それを護岸や防災など、自分の生活とのかかわりに広げて考える。 ・売買川や札内川、十勝川などで、実際に取り組まれている河川事業を知り、自分の生活とのかかわりに広げて考え、洪水被害の対策について、グループ討論を行い交流する。</td> <td colspan="4">・自然災害の被害の発生状況などから、災害の発生と気候や地形などを関連付けて、その要因を調べる。 ・国や都道府県の防災の取組に着目し、自分達にできる減災について考えを広げる。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価の観点</td> <td>予想や仮説、実験の結果から、命の連続性を感じるとともに、学習の成果を統計的にまとめている。</td> <td>調べたことから課題を見だし、自らの生活と関連付けて考えている。</td> <td colspan="3">調べたことを生かし、自らの生活と関連付けて活用しようとしている。</td> <td colspan="3">ふるさと十勝の自然環境や、産業に対する誇りと愛情をもち、そのよさや課題について、目的をもって発信することができる。</td> <td colspan="3">他者とかかわり合いながら、調べたり、実験をしたりしている。</td> <td colspan="2">流れる水のはたらきについて学んだことを、長雨や集中豪雨に伴う川の増水による災害や、防災、減災につなげて考えを深めている。</td> <td colspan="2">国内のいたるところで起こっている自然災害について学んだことを、自らの地域の地形や気候、生活と関連付けて考えている。</td> <td colspan="1">自らの防災意識を高め、自然災害を減らすことにつながることを考えている。</td> </tr> <tr> <td colspan="13" style="text-align: center;">人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力</td> </tr> </table>											月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	単元目標	単元名:植物の発芽と成長	単元名:メダカのたんじょう	単元名:十勝の農業を体験しよう			単元名:流れる水のはたらき			単元名:自然災害を防ぐ(風水害の取組)				ウチダザリガニを使った有機肥料の効果を検証しよう。	生物の共通性、多様性の学びから、外国から持ち込まれた生物について考えよう(外来種)。	ウチダザリガニを活用した有機肥料を生かし、農園での栽培活動をしよう。			川の上流と下流の川幅や水の流れの速さ、河原の石の形や大きさなどを調べよう。流れる水の速さや量が変わること起こる災害があることや、人々が災害からくらしを守る取組について考えよう。十勝川支流合流部において、洪水被害をなくすにはどうすればよいか考え			風水害はどのような時に起こり、被害を減らすためにそのような取組があるかを調べよう。				主たる教科:理科 関連教科:総合的な学習の時間 4時間	主たる教科:理科 関連教科:総合的な学習の時間 1時間	主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:理科 12時間			主たる教科:理科 関連教科:社会 11時間			主たる教科:社会 関連教科:総合的な学習の時間 4時間				主な学習活動	・機関庫の川で駆除したウチダザリガニを活用した有機肥料の効果を検証し、データをまとめる。(インゲン豆の観察)	・生物の多様性を脅かす外来種について知り、身近な外来種問題を考える。	・野菜の栽培方法を学ぶ中で、ウチダザリガニを使った有機肥料の効果的な活用方法について知る。(農家の方からの指導) ・十勝の農業と、水環境を含めた様々な自然環境とのかかわりについて学び、その重要性について考える。十勝が「農業王国」と呼ばれる理由やその魅力、可能性などについてまとめ、発信する。			・流れる水と地面の様子、水の量が変化した時のはたらきについて予想や仮説をもち、実験して調べる。 ・機関庫の川の様子から浸食・堆積・運搬についてとらえ、それを護岸や防災など、自分の生活とのかかわりに広げて考える。 ・売買川や札内川、十勝川などで、実際に取り組まれている河川事業を知り、自分の生活とのかかわりに広げて考え、洪水被害の対策について、グループ討論を行い交流する。			・自然災害の被害の発生状況などから、災害の発生と気候や地形などを関連付けて、その要因を調べる。 ・国や都道府県の防災の取組に着目し、自分達にできる減災について考えを広げる。				評価の観点	予想や仮説、実験の結果から、命の連続性を感じるとともに、学習の成果を統計的にまとめている。	調べたことから課題を見だし、自らの生活と関連付けて考えている。	調べたことを生かし、自らの生活と関連付けて活用しようとしている。			ふるさと十勝の自然環境や、産業に対する誇りと愛情をもち、そのよさや課題について、目的をもって発信することができる。			他者とかかわり合いながら、調べたり、実験をしたりしている。			流れる水のはたらきについて学んだことを、長雨や集中豪雨に伴う川の増水による災害や、防災、減災につなげて考えを深めている。		国内のいたるところで起こっている自然災害について学んだことを、自らの地域の地形や気候、生活と関連付けて考えている。		自らの防災意識を高め、自然災害を減らすことにつながることを考えている。	人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																																																												
単元目標	単元名:植物の発芽と成長	単元名:メダカのたんじょう	単元名:十勝の農業を体験しよう			単元名:流れる水のはたらき			単元名:自然災害を防ぐ(風水害の取組)																																																																																															
	ウチダザリガニを使った有機肥料の効果を検証しよう。	生物の共通性、多様性の学びから、外国から持ち込まれた生物について考えよう(外来種)。	ウチダザリガニを活用した有機肥料を生かし、農園での栽培活動をしよう。			川の上流と下流の川幅や水の流れの速さ、河原の石の形や大きさなどを調べよう。流れる水の速さや量が変わること起こる災害があることや、人々が災害からくらしを守る取組について考えよう。十勝川支流合流部において、洪水被害をなくすにはどうすればよいか考え			風水害はどのような時に起こり、被害を減らすためにそのような取組があるかを調べよう。																																																																																															
	主たる教科:理科 関連教科:総合的な学習の時間 4時間	主たる教科:理科 関連教科:総合的な学習の時間 1時間	主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:理科 12時間			主たる教科:理科 関連教科:社会 11時間			主たる教科:社会 関連教科:総合的な学習の時間 4時間																																																																																															
主な学習活動	・機関庫の川で駆除したウチダザリガニを活用した有機肥料の効果を検証し、データをまとめる。(インゲン豆の観察)	・生物の多様性を脅かす外来種について知り、身近な外来種問題を考える。	・野菜の栽培方法を学ぶ中で、ウチダザリガニを使った有機肥料の効果的な活用方法について知る。(農家の方からの指導) ・十勝の農業と、水環境を含めた様々な自然環境とのかかわりについて学び、その重要性について考える。十勝が「農業王国」と呼ばれる理由やその魅力、可能性などについてまとめ、発信する。			・流れる水と地面の様子、水の量が変化した時のはたらきについて予想や仮説をもち、実験して調べる。 ・機関庫の川の様子から浸食・堆積・運搬についてとらえ、それを護岸や防災など、自分の生活とのかかわりに広げて考える。 ・売買川や札内川、十勝川などで、実際に取り組まれている河川事業を知り、自分の生活とのかかわりに広げて考え、洪水被害の対策について、グループ討論を行い交流する。			・自然災害の被害の発生状況などから、災害の発生と気候や地形などを関連付けて、その要因を調べる。 ・国や都道府県の防災の取組に着目し、自分達にできる減災について考えを広げる。																																																																																															
	評価の観点	予想や仮説、実験の結果から、命の連続性を感じるとともに、学習の成果を統計的にまとめている。	調べたことから課題を見だし、自らの生活と関連付けて考えている。	調べたことを生かし、自らの生活と関連付けて活用しようとしている。			ふるさと十勝の自然環境や、産業に対する誇りと愛情をもち、そのよさや課題について、目的をもって発信することができる。			他者とかかわり合いながら、調べたり、実験をしたりしている。			流れる水のはたらきについて学んだことを、長雨や集中豪雨に伴う川の増水による災害や、防災、減災につなげて考えを深めている。		国内のいたるところで起こっている自然災害について学んだことを、自らの地域の地形や気候、生活と関連付けて考えている。		自らの防災意識を高め、自然災害を減らすことにつながることを考えている。																																																																																							
人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力																																																																																																								

河川教育計画書【複数学年6年生】

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり		学校名	帯広市立豊成小学校		助成番号	2024-7214-002																																																																			
2.河川教育の目標	身近な支援環境に関心を持ち、探究的な見方や考え方を育む。自分達の生活とのつながりを実感し、恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。																																																																									
3.育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。																																																																									
4.学年／人数	第6学年／115名																																																																									
5.単元構想	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">単元目標</td> <td colspan="2"> 単元名：生物どうしのつながり 自然界のつりあいを脅かす、外来種について知り、身近な外来種問題である、ウチダザリガニの駆除について考えよう。 主たる教科：理科 関連教科：総合的な学習の時間 6時間 </td> <td colspan="2"> 単元名：これまでの学習をつなげよう(水循環) 水の流れをたどりながら、水が地球上を循環していることをとらえよう。 主たる教科：理科 関連教科：総合的な学習の時間 2時間 </td> <td colspan="2"> 単元名：ウチダザリガニを活用し有機肥料を作ろう こだわりの土作りの話から、外来種の有効活用と、命のつながりについて考えよう。 主たる教科：総合的な学習の時間 関連教科：理科 6時間 </td> <td colspan="2"> 単元名：大地のつくり 流水による地層の成り方について学ぼう。 主たる教科：理科 関連教科：社会 15時間 </td> <td colspan="3"> 単元名：自然とともに生きる(生態系を守る) 持続可能な社会を創るために、自分達にできることを考えよう。 主たる教科：理科 関連教科：総合的な学習の時間 4時間 </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> ・教科書の一例から、国内における様々な外来種の問題について詳しく調べまとめる。 ・自分達にとって身近なウチダザリガニの問題について、どのようにしていくとよいのかを考える。 </td> <td colspan="2"> ・自然界の大きな水の循環をとらえ、人間の様々な水利用についてまとめ、理解を深める。 </td> <td colspan="2"> ・理科の学習で学んだ外来種の問題から、身近な外来種であるウチダザリガニの駆除およびその有効活用について考える。 ・外来種の命の重さについても考えながら、次年度の豊成小への「命のプレゼント」として、ウチダザリガニの有機肥料作りに取り組む。 ・下級生に対して、どのような思いを伝えるのかも考えながら活動し、年度末に下級生へ「有機肥料の受け渡し」セレモニーを行う。 </td> <td colspan="2"> ・地層の構成物から、地層は主に水のはたらきや火山のはたらきによってできることをとらえ、地面の下がどのようになっているのかを予想し、仮説を立て、その解決の方法について考える。 ・実験の結果から、私たちの住む地域の地層についても、予想し、太古の十勝帯広の様子について思いをはせる。 </td> <td colspan="3"> ・空気や水の汚れ、エネルギー問題など、人間の活動が、環境に与える影響についてこれまで学んできたことをもとにしてまとめる。 ・これからも続く自然と人間とのかかわりについて考え、持続可能な社会を創るために必要なことをまとめ、表現する。 </td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主な学習活動</td> <td colspan="2"> 様々な視点からこの問題について考え、根拠を明らかにしながら、活動に取り組もうとする。 </td> <td colspan="2"> 水の循環や人間の営みについて、様々な視点からとらえ、問題意識をもっている。 </td> <td colspan="2"> 命のつながりという最も大切なことを意識しながら、協働的かつ主体的に活動することができる。 </td> <td colspan="2"> 活動したことをまとめ、下級生に伝え、伝統をつなげようという意識をもっている。 </td> <td colspan="2"> 他者とかかわり合いながら、調べたり、実験をしたりしている。 </td> <td colspan="2"> 実験して得た情報を整理し、自分達の土地の様子と結びつけて考えたことをまとめ、表現している。 </td> <td colspan="2"> 人間と自然環境とのかかわりについて、様々な視点からとらえまとめている。 </td> <td colspan="1"> 自分の生き方につなげて考えることができる。 </td> </tr> <tr> <td colspan="11"> 人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力 </td> </tr> </tbody> </table>											月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	単元目標	単元名：生物どうしのつながり 自然界のつりあいを脅かす、外来種について知り、身近な外来種問題である、ウチダザリガニの駆除について考えよう。 主たる教科：理科 関連教科：総合的な学習の時間 6時間		単元名：これまでの学習をつなげよう(水循環) 水の流れをたどりながら、水が地球上を循環していることをとらえよう。 主たる教科：理科 関連教科：総合的な学習の時間 2時間		単元名：ウチダザリガニを活用し有機肥料を作ろう こだわりの土作りの話から、外来種の有効活用と、命のつながりについて考えよう。 主たる教科：総合的な学習の時間 関連教科：理科 6時間		単元名：大地のつくり 流水による地層の成り方について学ぼう。 主たる教科：理科 関連教科：社会 15時間		単元名：自然とともに生きる(生態系を守る) 持続可能な社会を創るために、自分達にできることを考えよう。 主たる教科：理科 関連教科：総合的な学習の時間 4時間			・教科書の一例から、国内における様々な外来種の問題について詳しく調べまとめる。 ・自分達にとって身近なウチダザリガニの問題について、どのようにしていくとよいのかを考える。		・自然界の大きな水の循環をとらえ、人間の様々な水利用についてまとめ、理解を深める。		・理科の学習で学んだ外来種の問題から、身近な外来種であるウチダザリガニの駆除およびその有効活用について考える。 ・外来種の命の重さについても考えながら、次年度の豊成小への「命のプレゼント」として、ウチダザリガニの有機肥料作りに取り組む。 ・下級生に対して、どのような思いを伝えるのかも考えながら活動し、年度末に下級生へ「有機肥料の受け渡し」セレモニーを行う。		・地層の構成物から、地層は主に水のはたらきや火山のはたらきによってできることをとらえ、地面の下がどのようになっているのかを予想し、仮説を立て、その解決の方法について考える。 ・実験の結果から、私たちの住む地域の地層についても、予想し、太古の十勝帯広の様子について思いをはせる。		・空気や水の汚れ、エネルギー問題など、人間の活動が、環境に与える影響についてこれまで学んできたことをもとにしてまとめる。 ・これからも続く自然と人間とのかかわりについて考え、持続可能な社会を創るために必要なことをまとめ、表現する。			主な学習活動	様々な視点からこの問題について考え、根拠を明らかにしながら、活動に取り組もうとする。		水の循環や人間の営みについて、様々な視点からとらえ、問題意識をもっている。		命のつながりという最も大切なことを意識しながら、協働的かつ主体的に活動することができる。		活動したことをまとめ、下級生に伝え、伝統をつなげようという意識をもっている。		他者とかかわり合いながら、調べたり、実験をしたりしている。		実験して得た情報を整理し、自分達の土地の様子と結びつけて考えたことをまとめ、表現している。		人間と自然環境とのかかわりについて、様々な視点からとらえまとめている。		自分の生き方につなげて考えることができる。	人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力										
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																														
単元目標	単元名：生物どうしのつながり 自然界のつりあいを脅かす、外来種について知り、身近な外来種問題である、ウチダザリガニの駆除について考えよう。 主たる教科：理科 関連教科：総合的な学習の時間 6時間		単元名：これまでの学習をつなげよう(水循環) 水の流れをたどりながら、水が地球上を循環していることをとらえよう。 主たる教科：理科 関連教科：総合的な学習の時間 2時間		単元名：ウチダザリガニを活用し有機肥料を作ろう こだわりの土作りの話から、外来種の有効活用と、命のつながりについて考えよう。 主たる教科：総合的な学習の時間 関連教科：理科 6時間		単元名：大地のつくり 流水による地層の成り方について学ぼう。 主たる教科：理科 関連教科：社会 15時間		単元名：自然とともに生きる(生態系を守る) 持続可能な社会を創るために、自分達にできることを考えよう。 主たる教科：理科 関連教科：総合的な学習の時間 4時間																																																																	
	・教科書の一例から、国内における様々な外来種の問題について詳しく調べまとめる。 ・自分達にとって身近なウチダザリガニの問題について、どのようにしていくとよいのかを考える。		・自然界の大きな水の循環をとらえ、人間の様々な水利用についてまとめ、理解を深める。		・理科の学習で学んだ外来種の問題から、身近な外来種であるウチダザリガニの駆除およびその有効活用について考える。 ・外来種の命の重さについても考えながら、次年度の豊成小への「命のプレゼント」として、ウチダザリガニの有機肥料作りに取り組む。 ・下級生に対して、どのような思いを伝えるのかも考えながら活動し、年度末に下級生へ「有機肥料の受け渡し」セレモニーを行う。		・地層の構成物から、地層は主に水のはたらきや火山のはたらきによってできることをとらえ、地面の下がどのようになっているのかを予想し、仮説を立て、その解決の方法について考える。 ・実験の結果から、私たちの住む地域の地層についても、予想し、太古の十勝帯広の様子について思いをはせる。		・空気や水の汚れ、エネルギー問題など、人間の活動が、環境に与える影響についてこれまで学んできたことをもとにしてまとめる。 ・これからも続く自然と人間とのかかわりについて考え、持続可能な社会を創るために必要なことをまとめ、表現する。																																																																	
主な学習活動	様々な視点からこの問題について考え、根拠を明らかにしながら、活動に取り組もうとする。		水の循環や人間の営みについて、様々な視点からとらえ、問題意識をもっている。		命のつながりという最も大切なことを意識しながら、協働的かつ主体的に活動することができる。		活動したことをまとめ、下級生に伝え、伝統をつなげようという意識をもっている。		他者とかかわり合いながら、調べたり、実験をしたりしている。		実験して得た情報を整理し、自分達の土地の様子と結びつけて考えたことをまとめ、表現している。		人間と自然環境とのかかわりについて、様々な視点からとらえまとめている。		自分の生き方につなげて考えることができる。																																																											
	人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力																																																																									
評価の観点	<table border="1"> <tr> <td>様々な視点からこの問題について考え、根拠を明らかにしながら、活動に取り組もうとする。</td> <td>水の循環や人間の営みについて、様々な視点からとらえ、問題意識をもっている。</td> <td>命のつながりという最も大切なことを意識しながら、協働的かつ主体的に活動することができる。</td> <td>活動したことをまとめ、下級生に伝え、伝統をつなげようという意識をもっている。</td> <td>他者とかかわり合いながら、調べたり、実験をしたりしている。</td> <td>実験して得た情報を整理し、自分達の土地の様子と結びつけて考えたことをまとめ、表現している。</td> <td>人間と自然環境とのかかわりについて、様々な視点からとらえまとめている。</td> <td>自分の生き方につなげて考えることができる。</td> </tr> </table>											様々な視点からこの問題について考え、根拠を明らかにしながら、活動に取り組もうとする。	水の循環や人間の営みについて、様々な視点からとらえ、問題意識をもっている。	命のつながりという最も大切なことを意識しながら、協働的かつ主体的に活動することができる。	活動したことをまとめ、下級生に伝え、伝統をつなげようという意識をもっている。	他者とかかわり合いながら、調べたり、実験をしたりしている。	実験して得た情報を整理し、自分達の土地の様子と結びつけて考えたことをまとめ、表現している。	人間と自然環境とのかかわりについて、様々な視点からとらえまとめている。	自分の生き方につなげて考えることができる。																																																							
様々な視点からこの問題について考え、根拠を明らかにしながら、活動に取り組もうとする。	水の循環や人間の営みについて、様々な視点からとらえ、問題意識をもっている。	命のつながりという最も大切なことを意識しながら、協働的かつ主体的に活動することができる。	活動したことをまとめ、下級生に伝え、伝統をつなげようという意識をもっている。	他者とかかわり合いながら、調べたり、実験をしたりしている。	実験して得た情報を整理し、自分達の土地の様子と結びつけて考えたことをまとめ、表現している。	人間と自然環境とのかかわりについて、様々な視点からとらえまとめている。	自分の生き方につなげて考えることができる。																																																																			

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2024-7214-002
---------	----------------------------	-----	-----------	------	---------------

2.実際に行った単元構成
注)活動の様子を記述し、写真を添付してください。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学習活動の結果	<p>単元名: いくぞ! がっこうたんけんたい</p> <p>・学校の周辺を観察して学習する中で、学校裏に小川が流れていることを知る。子どもたちと初めて「機関庫の川」という名前であることを確認することができた。 ・川に入るときには、ルールがあることを知り、夏に入る予定であることを予告した。</p> <p>関連教科:生活1時間、国語1時間</p> <p>周辺環境の観察①</p> <p>・春の様子を確認するために、学校周辺を観察する学習を行った。学校裏に小川が流れていることやその川の名前が「機関庫の川」であることを知っている子どももいたが、改めて学年で確認することができた。今後、小学校で機関庫の川で学習する機会が多くなることについて知ることもできた。 ・振り返りの学習として、教室で学校周辺の見つけたものについて発表、交流を行った。機関庫の川や周りにある植物などについて振り返ることができた。 ・川の近くや川で学習するためには、安全に関わるルールがあることを確認した。 ・夏には、同じエリアにある帯広北高等学校のお兄さんお姉さんと川の学習をすることを伝えた。</p>	<p>単元名: げんきにそだて わたしのはな①</p> <p>・花壇や農園に「ザリガニ堆肥」を加え、花や枝豆を育て、土の栄養について考えた。</p> <p>関連教科:生活2時間、国語1時間、道徳1時間</p> <p>環境サイクルの実感</p> <p>・学級花壇や農園に、「ザリガニ堆肥」を加えることで、土の栄養になることを知った。今後、どのように育てていくかについて子どもたちと予想する学習を行った。 ・ザリガニ堆肥を加えることで、土や花、農作物にどのような違いがあるかについて交流した。今後、みんなで育てていく枝豆がどのように成長し、収穫することができるかを考えながら、環境サイクルを実感していく。</p> 	<p>単元名: なつとなかよし</p> <p>・同じエリアにある帯広北高等学校の協力いただき、子どもたちにとって身近な川である機関庫の川に入って、川遊びを体験した。 ・川にすむ生き物の観察を行い、楽しかったことや学んだことなどについて交流した。</p> <p>関連教科:生活2時間、国語1時間、図工1時間</p> <p>川の遊びの体験・生き物の観察・駆除</p> <p>・機関庫の川に入ってやってみたいことや見つけてみたい生き物などを交流し合い、学習の意欲を高めることができた。 ・川の学習をする上で、ライフジャケットを正しく着用すること、大人と一緒に川に入ることなど、安全に関することを知った。 ・帯広北高校の60名の生徒と一緒に川の学習を進めることができた。安全面や生き物の捕り方、振り返りの交流でたくさんの協力をもたらすことができた。 ・実際に機関庫の川に入り、川周辺の様子、水の冷たさ、生き物とのふれあいなど、様々な感触を味わうことができた。 ・生き物に触ることに抵抗感がある子どももいたが、周りのみんなが楽しそうに活動する中、次第に取り組めることができるようになっていた。 ・川遊びのあとは、高校生と一緒に振り返りの交流を行うことができた。体験したことを生き生きと話す子どもたちの姿があった。</p>  	<p>単元名: げんきにそだて わたしのはな②</p> <p>・学校農園で育てた枝豆を食べることができた。土の栄養によっておいしい作物ができることを知った。</p> <p>関連教科:生活1時間、国語1時間</p> <p>環境サイクルの実感②</p> <p>・農園の土にザリガニ堆肥を加えたことを思い出し、土の栄養やその効果についてみんなで確認することができた。 ・昨年度の6年生が作ってくれたザリガニ堆肥が自分達の栄養になるというつながりについて学習することができた。</p> 	<p>単元名: ふゆとなかよし</p> <p>・十勝ならではの冬の自然について楽しみながら、感じたことや発見したことについて表現した。</p> <p>関連教科:生活2時間、国語1時間、図工1時間</p> <p>水のお面作り</p> <p>・十勝の冬を感じながら、屋外で水や雪を活用した冬の学習を楽しむことができた。 ・雪不足のため、例年の氷のお面作りからさらに工夫を加えながらの作成となったが、自分達で考えた材料で顔を作った。 ・水を活用して氷に固まって変化した様子から、水の状態変化を活動の中で体感することができ、興味や関心をもって取り組む姿が見られた。</p> 	<p>周辺環境の観察②</p> <p>・夏に川遊びをした機関庫の川について、冬にはどんな様子になっているかについて考えることができた。夏との違いを予想しながらの学習となった。 ・雪や氷に覆われた機関庫の川の美しさに驚いていた子どもたちで、太陽の光に反射されてきらきら光る様子に、笑顔で観察を続ける姿が見られた。 ・川の凍った氷を見つけて、「ジュエリーアイスみたい」と喜んだり、動物の足跡を見つけ、「川の水を飲みきたんじやないかな」と予想したりできた。夏とは違った冬の機関庫の川の魅力を知ることができた時間となった。</p>						

<p>3.得られた成果</p> <p>・それぞれの季節によって機関庫の川の様子や景色が変わることを実感することができた。川や生き物、周辺の環境、生息する動植物などに対する興味や関心の高まりが見られた。特に、「冬の川の様子」を書いた子どもたちは、楽しみながらも様々な発見をすることができたことが大きな収穫となった。 ・帯広北高校の生徒のみなさんの協力により、生き物とのふれあいを前向きに取り組むことができた。その経験から、校内で飼育しているサケの稚魚やニホンザリガニの水槽のお世話やエサやりを率先してやりたい気持ちが高めることができた。 ・川の水に触れる経験が、ボランティアの皆さんや友達との支えの中で、実践する様子が見られた。交流場面の中でも、多くの子どもたちの堂々と発表する姿があり、これらの実践に大きな意義があった。</p>	<p>4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果</p> <p>・学年の先生とともに、機関庫の川との出会いを大事に扱うことができたこと、今年度も帯広北高校の生徒の皆さんの協力があったことで、「川の学習は楽しい」「2年生になっても川の学習を頑張りたい」と身近な環境に高い興味や関心をもつことができたことが大きい。 ・花壇や農園で育てている花や作物にも、機関庫の川がかかわっていることを、1年生なりに考えることができていた様子だった。今後の命のつながりの学習で大きな力を発揮できることが予想される。 ・十勝ならではの冬の遊びを体験しながら、川の様子を見ながら、水の状態変化を触って見て知ることができた。</p>
--	---

河川教育 学習活動報告書【複数学年2年生】

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2024-7214-002
---------	----------------------------	-----	-----------	------	---------------

5.実際にいった単元構成
注)活動の様子を記述し、写真を添付してください。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学習活動の結果	<p>単元名: 大きくそだてわたしの野さい</p> <p>・それぞれ自分たちで選択した野菜の土に、「ザリガニ堆肥」を混ぜた。土の栄養について関心を高めることとした。</p> <p>関連教科:生活2時間、国語1時間</p> <p>環境サイクルの実感①</p> <p>・自分たちで育てる野菜の土に、「ザリガニ堆肥」を混ぜる際に、卒業生が在校生のために作ってくれたものだとことを確認した。 ・ウチダザリガニを活用した「ザリガニ堆肥」を土に混ぜることでどんな効果があるかについて、交流することができた。今後、野菜の育ち方について観察を続けていく。</p>   		<p>単元名: みんな生きている</p> <p>・機関庫の川にはどんな様子なのか、どんな生き物がすんでいるのかについて、その様子を観察した。 ・実際に見たことや感じたことなどについて観察カードにまとめ、高校生のお兄さんお姉さんと一緒に交流したり学級でまとめたりした。</p> <p>関連教科:生活5時間、国語1時間、図工1時間</p> <p>生き物の観察・採捕・駆除</p> <p>・1年前に学習したことを振り返り、機関庫の川はどんな様子だったか、今回の学習では、どのようにして生き物を観察するか、高校生のみんなとどう交流することができるかについての確認を行った。 ・川での学習では、子ども同士では行かないことやライフジャケットを着用することについて、しっかり確認することができた。 ・帯広北高校のご協力の基、60人の生徒のみなさんにお手伝いをしていただくことができた。川で学習することを目的に沿って、安全面の確保、川にすんでいる生き物の採捕のサポート、グループ学習における進行補助やまとめのコメントなど、多くの場面で助けていただいた。 ・みんなで捕まえた生き物は、テラスに持っていき、みんなでじっくりと観察を行った。どういった場所で見つけたか、触ったときの感触などを振り返りながら、意欲的なまとめの時間となった。 ・おおむねの生き物は川に放流したが、種類ごとに数匹を厳選し、校舎内の水槽で飼育し、その様子について観察していくこととした。 ・教室では、観察カードにまとめたことを各学級で発表や交流を行った。</p> 		<p>単元名: 大きくそだてわたしの野さい</p> <p>・命のつながりを実感しながら、おいしく実った野菜を食べ、ザリガニ堆肥の効果について考えることができた。</p> <p>関連教科:生活3時間、国語1時間</p> <p>環境サイクルの実感②</p> <p>・ザリガニ堆肥を土に混ぜ、作物のお世話をしてきた。堆肥を使うことによって、作物がおいしく大きく育つことがわかった。 ・機関庫の川にある栄養が使われていることにつながり、野菜の栄養、自分達の栄養のつながりを知る機会となった。</p>  		<p>単元名: みんな生きている</p> <p>・夏に学習した機関庫の川を振り返り、冬の機関庫の川について観察することができた。</p> <p>関連教科:生活1時間、国語1時間</p> <p>機関庫の川の観察</p> <p>・夏に学習した川の様子を思い出し、冬はどんな様子になっているかについて確認する時間を設定した。 ・川の水がとてもきれいなこと、水の量が少し多く感じる、生き物の様子が見えたことなど、それぞれ子どもたちは、見たことや感じたことを観察することができた。 ・校舎内で飼育しているサケの稚魚や機関庫の川のいけすで飼育しているサケの稚魚は、来年度の春に、自分達で機関庫の川に放流することを知り、子どもたちの学習の意欲の高まりが見られた。</p>  					

3.得られた成果
・昨年度実施した学習が、今年度の学習に大いに生かされている。自分達で考えた計画やアイデアで川の学習に臨む姿が見られ、主体的に意欲的に学習に臨む姿が見られた。
・帯広北高等学校のご協力の基、子どもの川の学習の安全面の保障、交流する際の内容の深まりなど大きな意義があった。たくさん感覚を使って学ぶ様子が見られ、他の生き物との比較や季節によっての川の様子との比較をすることができた。

4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果
・1年生のときの川の学習を思い出し、昨年度よりも前向きに川の学習に取り組む姿が見られた。生き物の捕まえ方や生態、高校生との交流など、これまでの経験に基づいて予想や計画を立てることができている。
・豊成小学校の近くに流れる機関庫の川には、多くの生き物がすんでいること、大きな川につながっていること、やがて海にたどりつくことなど、1年生のときよりも考えの深まりが見られる。来年度の川の学習の見通しをもち、サケの稚魚放流の意義についても確認することができた。

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2024-7214-002
---------	----------------------------	-----	-----------	------	---------------

2.実際に行った単元構成
注)活動の様子を記述し、写真を添付してください。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---

オリエンテーション	単元名：機関庫の川と友だち①	単元名：機関庫の川と友だち②	単元名：機関庫の川と友だち③
<ul style="list-style-type: none"> ・サケの稚魚の放流を通して、川の影響を調べる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊成小学校の身近な川である機関庫の川でどんな調査活動ができるか、主体的にかかわることができるかについて、疑問をもったり自分の目で確かめたりして、機関庫の川の現状を知ることができた。 ・今の川の状態について多くの根拠をもって調べる方法があることを知り、様々な調査結果から課題をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するために子どもたち同士でグループを作った。機関庫の川について知りたいこと、川の環境のためにしたいことを活動の取組として進めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、機関庫の川について知りたいことや川の環境のためにしたいことをまとめ、保護者の方々やお世話になった方々を招き、報告会を行った。



関連教科:総合的な学習の時間13時間、国語1時間、理科1時間、社会1時間

関連教科:総合的な学習の時間18時間、国語1時間、理科1時間、社会1時間

関連教科:総合的な学習の時間11時間、国語1時間、理科1時間、社会1時間

学習活動の結果

<p>体験活動と課題設定 「サケの稚魚を放流しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内やいけすで飼育してきたサケの稚魚放流を行った。 ・放流後、様々な川を渡って海に出ることを知り、大型地図を使って、川がどのように海につながっているかについて確かめることができた。 ・地域ボランティアの先生にサケの稚魚が今後どのような生活を送り、生まれた川に戻ってくるかについてお話を聞く機会をいただくことができた。 	<p>調査活動と課題設定①「機関庫の川の不思議を探そう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前の学習では、「機関庫の川のはかせになる」と確認した。自分達が興味をもったことや調べてみたいことなどを探すために学習を進めていく。 ・低学年での川の学習の経験があるため、川に入ったり生き物を捕ったりすることについて抵抗感はない。 ・調べてみたいことを見つけるといった視点で活動を進めていくことを促した。 	<p>調査結果と課題設定②「機関庫の川の虫を調べよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「機関庫の川はきれいなのか」「サケの赤ちゃんにとって恵まれた環境なのか」について確認するために、水生昆虫調査を行った。地域ボランティアの先生から、サケの稚魚のお話や水生昆虫のお話をいただいたばかりだったため、高い意欲で昆虫を採取し、その特徴を話し合ったり指標と比較しながらまとめたりする様子が見られた。 	<p>調査結果と課題設定③「機関庫の川の水を調べよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「機関庫の川はきれいなのか」という課題に迫るため、「きれいな水」の定義を確認し、バックテストを実施した。 ・指標と見比べながら結果を予想しながら話し合った。 ・3種類のテストの結果からわかることについて感想を交えて発表を行った。調査結果の後、川について調べてみたいことが少しずつ明確になっていく様子が見られた。 	<p>調査結果と課題設定④「機関庫の川の生き物を調べよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「十勝多自然ネット」の皆さんをガイドに招き、生き物の調査を行った。 ・グループごとに捕った生き物を分類し、生き物の生態について説明を受けることができた。 ・例年、機関庫の川で多く採捕する「ウチダザリガニ」について、ガイドの方々にその生態について教えてもらったり、多くとれる理由について考える機会をいただいたりした。 ・各グループごとに調査結果を発表した。外来種の存在を知った子どもたちは、機関庫の川の今後の在り方について問題意識をもつことができた。 	<p>課題解決活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な調査結果を通して、機関庫の川の現状を知ることができた。「機関庫の川について知りたいこと」「川の環境のためにしたいこと」について、課題を設定し解決していくことができた。学年全体で協力し合い、同じ課題をもつメンバー同士が集まり、グループ作成をすることができた。 	<p>調査活動と課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の成果発表を12月に行った。 ・体育館に保護者の方々やお世話になった方々を招き、自分達で作ったタブレット端末を使い、スライドを作成し、発表会を行った。 ・各グループでタブレット端末を工夫して使う場面が見られたことはもちろん、見ていただく方々にわかりやすく聞きやすい発表を意識し、事前に練習を重ねてきた。 ・次年度は、教科とのつながりを意識しながら、川の学習について学びを深めていく。
---	---	---	---	---	---	---



3.得られた成果
・低学年と比べると、3年生の学習では、より自分達で目的をもって川と関わることが多くなり、「機関庫の川の博士になる」という思いを重視し、1年間の活動に取り組むことができた。
・川の環境について、客観的に調査できる方法がたくさんあることを知ることができた。また、調査結果を基に、新たに疑問や関心が深まる様子がたくさん振り返りのワークシートから見ることもできた。
・友達同士で協力して行う調査活動や課題解決活動では、同じ課題をもつメンバーで協働しながら学習することのよさ、成果報告まで作り上げるやりがいについて実感をとまなうことができた。これらの経験は、今後のグループ活動に活かされていく。

4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果
・低学年での学習を基として、課題意識をもって機関庫の川に関わる活動を年間を通して行ってきた。身近な環境として愛着をもち、大切にしていきたいという意識をもつことができると考えられる。
・機関庫の川の生き物の調査活動から、外来種の存在に問題意識をもつことにつながる。環境を守ることにに対してどのように取り組むことが大切かについて実践していくことができた。
・来年度以降も、子どもたちのやってみたい思いを大切に、新たな取組の実践方法について模索していきたい。

河川教育 学習活動報告書【複数学年4年生】

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2024-7214-002
---------	----------------------------	-----	-----------	------	---------------

2.実際に行った単元構成
注)活動の様子を記述し、写真を添付してください。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学習活動の結果	<p>単元名：地面を流れる水の行方</p> <p>・雨水の流れ方、水の浸み込み方について、予想を立て、土の粒によって違いを確認することができた。</p> <p>関連教科：理科5時間、社会1時間</p> <p>課題設定・実験検証・まとめ①</p> <p>・昨年まで実践してきた機関庫の川での学習や、今までの生活経験とを結びつけることで、水の浸み込み方や水の流れ方の予想を立てて、観察や実験の方法について考えることができた。</p> <p>・雨天の際、屋外に出ることで、学校の駐車場の地図の傾き方や雨水の流れ方などについて観察することができた。</p> <p>・自然災害や土地の利用について予想しながら学習を進めることができた。</p>  	<p>単元名：水はどこから①</p> <p>・札内川流域全体の様子や地形から、良質な水を作り出す要因を考え、その維持管理について、自分達の生活とのつながりを考えて学習した。</p> <p>関連教科：社会9時間、理科1時間</p> <p>課題設定・実験検証・まとめ②</p> <p>・帯広でおいしい水が作られる要因について、これまで経験してきたことや学習してきたことから予想し、考えることができた。</p> <p>・帯広の農業や加工業が発展していることを知り、身近な自然環境を大切にしたいという思いをもつことができた。</p> 	<p>単元名：水はどこから②</p> <p>・帯広市水道課の職員の方々に講師を迎え、稲田浄水場及び十勝川流域浄化センターなどの学習を深めることができた。</p> <p>関連教科：社会1時間、理科1時間</p> <p>課題設定・実験検証・まとめ③</p> <p>・帯広市水道課の職員を講師として招き、「水道出前授業」の学習を進めることができた。安全でおいしい水が届けられる仕組み、維持管理にかかわる努力などについて知り、帯広の水の環境に感謝する気持ちをもつことができた。</p> <p>・稲田浄水場や十勝川流域浄化センターの仕組み動きについてのお話を聞くことができた。身近な水の環境を守るために、自分達ができることについて考えることができた。</p> 	<p>単元名：自然災害からくらしを守る(体験学習)</p> <p>・エールセンターを訪問し、職員の方々から安全指導や札内川にかかわる学習に取り組むことができた。</p> <p>関連教科：社会1時間、理科1時間</p> <p>課題設定・実験検証・まとめ④</p> <p>・エールセンターの施設を訪問し、札内川の水生物調査や水質検査を行い、昨年度に行った機関庫の川との比較・検証を行うことができた。</p> <p>・改めて、川の学習を進める上での安全指導の重要性を学んだ。また、隊列を組んでの横断体験や川流れ体験など、いざというときの知識を身に付けることができた。</p> 	<p>単元名：自然災害からくらしを守る</p> <p>・大型地図を利用したアクティビティを通して、流域についての考え方を学ぶことができた。</p> <p>・「親子防災教育」につなげ、水害への備えについて、体験活動をする事ができた。</p> <p>関連教科：社会9時間、理科1時間</p> <p>課題設定・実験検証・まとめ⑤</p> <p>・北海道開発局帯広開発建設部に作成していただいた十勝帯広の大型地図を活用し、川の水があふれる仕組みについて、実際に体を使いながら理解を深めることができた。</p> <p>・風水害が起こったときに、私達の暮らしを守る帯広市の取組(ハザードマップ)について知り、活用することで身近な生活と結びつけて考えることができた。</p> <p>・帯広市危機対策課の方を講師としてお招きし、「親子防災教室」を実施することができた。防災や減災についての意識を高めることができた。</p>   	<p>単元名：みずのゆくえ</p> <p>・自然の中をめぐる水の様子について、アクティビティを通して学びを深めることができた。</p> <p>関連教科：理科4時間、社会1時間</p> <p>・川で学習してきた経験を基に、水の様子の変化について理解することができた。自然界を循環する水について、アクティビティを通して楽しみながらもイメージをふくらませて学習することができた。</p> <p>・地球の水を守っていくために、どのようなことができるかについて考える機会にもなった。</p>    						

3.得られた成果

- ・校舎内のホールを活用してのアクティビティ、大型地図を使つての流域の交流、屋外に出て実際に水の流れを自分の目や体で体感することなど、多くの活動を通して4年生にとって意義のある時間となった。
- ・3年生のときに学習した機関庫の川で経験を、札内川でも実験実証を行うことができた。十勝川流域全体に目を向け、そのつながりを意識することができた。

4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果

- ・3年生までの機関庫の川での学習から視野を広げ、十勝川流域全体を意識して学習する1年間となった。大型地図を活用した授業や札内川での体験学習が、非常に効果的だった。引き続き、他の場面での大型地図の活用方法について教材研究を進めていきたい。
- ・社会と理科の学習を横断しながら、外部の講師の方々のお力をいただきながら、「帯広の水」「流域の考え方」「自然災害の備え」などについて学びを重ね、積み上げていくことができた。

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2024-7214-002
---------	----------------------------	-----	-----------	------	---------------

2.実際に行った単元構成
注)活動の様子を記述し、写真を添付してください。

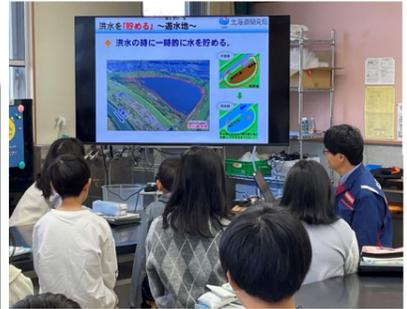
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---

単元名：植物の発芽と成長	単元名：メダカのたんじょう	単元名：十勝の農業を体験しよう	単元名：流れる水のはたらき	単元名：自然災害を防ぐ(風水害の取組)
--------------	---------------	-----------------	---------------	---------------------

<ul style="list-style-type: none"> ・発芽実験(インゲン豆)の成長を通して、ザリガニ堆肥の効果の有用性について検証を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の共通性や多様性の学びを通して、機関庫の川に生息する外来種(ウチダザリガニ)問題について考察した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・十勝の農業の体験を通して、地元の産業や地域の恵まれた自然環境に誇りと愛情をもち、それらのよさについて学ぶことができた。 ・ザリガニ堆肥の効果の有用性について検証し、十勝の農業と自然環境のかかわり考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・流れる水と地形の関係性を考え、予想や仮説をもつことができた。 ・十勝川流域の模型を活用し、川の氾濫の実験を通して、私達の生活と水害とを結びつけ考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害はどのようなときに起こり、減災のために私達ができることについて調べることができた。
--	--	---	---	---

関連教科:理科3時間、総合的な学習の時間1時間	関連教科:理科1時間、総合的な学習の時間1時間	関連教科:総合的な学習の時間11時間、理科1時間	関連教科:理科10時間、社会1時間	関連教科:社会3時間、総合的な学習の時間1時間
-------------------------	-------------------------	--------------------------	-------------------	-------------------------

検証実験 <ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニ堆肥の効果の有用性を確かめるために、条件をそろえ、「堆肥あり」と「堆肥なし」の成長の様子を記録した。 ・家庭科の調理実習と関連させて、インゲン豆の味の違いを検証した。ザリガニ堆肥の効果の違いについて確かめることができた。 ・今年度の総合的な学習の時間を中心とした学習を通して、ザリガニ堆肥の効果について確立させていく。 	問題意識① <ul style="list-style-type: none"> ・清流とよばれている機関庫の川の水を活用し、校舎内でメダカの成長の様子について観察することができた。 ・外来種の学びについて、これまでのウチダザリガニの駆除と関連付け、私達の身近な環境を守るために、実践してきたことを実感することができた。 ・外来種のウチダザリガニの命が、次の命に受け継がれ、活用されていることを知ることができた。6年生の学習で行うザリガニ堆肥作りへの意欲につなげることができた。 	野菜栽培活動 <ul style="list-style-type: none"> ・十勝の農業を体験し、学校農園で育てた野菜を活用し、地産地消のピザ作りを行うことを計画した。農園の土には、ザリガニ堆肥を混ぜ、野菜を育てることができた。 ・作物の育成にかかわって、玉ねぎ農家の中村正信さん、JAかわにし青年部の方々、ごぼう農家の和田正司さんが講師として、5年生の学習にかかわっていただいた。農業において水や土が大切であることやザリガニ堆肥を土に混ぜることで作物により影響を与えることについて、お話をいただくことができた。それらのお話を聞いて、子どもたちは意欲を高めることができた。 ・学校農園で育てた野菜を具材として、地産地消のピザ作りを実践することができた。満寿屋パンの杉山正則さんとそこで働いている従業員の方を講師に招き、地産地消の大切さ、農業王国十勝という環境、夢をもって働くことの魅力などの講話をいただくことができた。 	課題設定・実験実証・まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・機関庫の川を活用し、流れる水と浸食、堆積の様子を実際に見ながら課題について考えることができた。流れる水の三作用についての理解を深めていった。 ・十勝川流域の起伏地図を用いた実験を行った。川の流域が集まる箇所から発生する水害に原因について知ることができた。 ・北海道開発局帯広開発建設部の方々に講師としてお招きし、洪水の映像を見たり実際の河川事業などの説明をしていただいたりすることができた。その後、「十勝川合流部において洪水被害をなくすためにはどうすればよいか」について、グループで交流や検討を進めることができた。単元の最後に時間には、グループ毎に自分達が考えた河川事業について紹介し合うことができた。 	問題意識② <ul style="list-style-type: none"> ・様々な自然災害について調べることで、発生状況から気候や地形などと関連付けて、それらの要因について考えることができた。 ・私達の身近な地域の地形や気候はどうなっているかについて考えることができた。 ・視野を広げ、国や都道府県の防災や減災の取組を調べ、私達ができる具体的な減災について、交流することができた。
--	---	---	---	--



3.得られた成果

- ・理科の学習におけるインゲン豆の発芽と成長の実験、家庭科の学習における調理実習、総合的な学習の時間における十勝の農業を体験する学習など、すべてがザリガニ堆肥とつながっており、これまで取り組んでいた内容や学びが結びついていく。
- ・作物を育てる上での水と土の重要性については、十勝の農業に携わる方々から意義のあるものとして、講話をいただくことができた。
- ・河川における防災や減災を学ぶ場面では、北海道開発局帯広開発建設部の方々に多くの助言や支援をいただくことができた。防災の観点から、今後も、内容を広げたり他学年に活用したりする実践を検討していきたい。

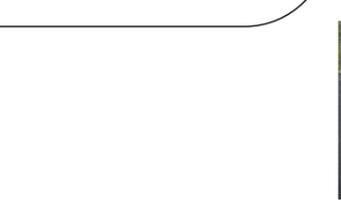
4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果

- ・理科や社会科の学習で学ぶ地形や治水、利水、気候や自然災害など、関連性を意識して計画していくことで、子どもたち自身が、自然環境や自分達の生活が繋がっていることに気付くことができた。
- ・教科の学習を取り組むにあたり、機関庫の川を学習材として観察することに大きな意義がある。今後も、恵まれた環境を生かし最大限に活用していきたい。
- ・今年度も、北海道開発局帯広開発建設部の方々に直接、河川事業を聞くことができる機会をいただいたり、自分達が考えた河川事業について助言をいただいたりできた。来年度は、防災の観点から、他学年の取組についてもアドバイスをいただきたい。

河川教育 学習活動報告書【複数学年6年生】

1.助成事業名	機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり	学校名	帯広市立豊成小学校	助成番号	2024-7214-002
---------	----------------------------	-----	-----------	------	---------------

2.実際に行った単元構成
注)活動の様子を記述し、写真を添付してください。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
学習活動の結果		<p>単元名：生物どうしのつながり</p> <p>・生物と環境との関係性について考え、お互いが密接につながっていることについて考えを深めることができた。</p> <p>関連教科:理科5時間、総合的な学習の時間1時間</p> <p>課題設定・実験検証・まとめ</p> <p>・すべての生物は、周りの環境とかかわり合って生きているということ、生物は、食べる食べられる関係性があることを正しく理解することができ、生物と環境とのつながりを意識して学びを深めることができた。 ・身近な自然環境で学んだことを振り返り、生物どうしのつながりについて考えることができた。 ・機関庫の川の生態系をイメージして、外来種がいることによる食物連鎖の影響について考え、私達ができることについて交流することができた。</p>	<p>単元名：これまでの学習をつなげよう(水循環)</p> <p>・水の流れや動きをたどりながら、地球全体の視野をもって、地球上を循環する様子をとらえることができた。</p> <p>関連教科:理科1時間、総合的な学習の時間1時間</p> <p>調べ学習とまとめ</p> <p>・今年度に学んだ「生物どうしのつながり」から4年生の理科で学習した「水のゆくえ」を想起し、自然界における水の循環をとらえることができた。 ・人が生活するための必要な水の使い方について確認し、理解を深めることができた。</p>	<p>単元名：ウチダザリガニを活用し有機肥料を作ろう</p> <p>・今年度、機関庫の川で駆除してきたウチダザリガニを堆肥にする活動に取り組むことができた。</p> <p>関連教科:理科1時間、総合的な学習の時間1時間</p> <p>体験活動</p> <p>・理科の単元「生物どうしのつながり」で学んだ食物連鎖や外来種の学びから、生態系を崩す恐れがあるウチダザリガニの駆除の方法や有効的な活用方法について考えることができた。 ・授業の中で、生き物の命の重さや外来種の問題を総合的に考え、最高学年から在校生へのプレゼント制作として、ウチダザリガニの堆肥作りに取り組むことができた。 ・振り返りには、今までの豊成小学校の活動がしっかりとつながっていたこと、伝統を受け継ぐ最高学年としての責任を感じていること、もともとは外来種は人の都合で連れてこられた生き物であることなど、様々な考えを深めていくことができた。 ・約一か月にわたり、定期的に堆肥の切り返し作業を行ってきた。切り返し作業を重ねる度に堆肥の様子の変化を感じながら取り組むことができた。</p>	<p>単元名：大地のつくり</p> <p>・私達の住む地域の大地はどのように作られたのかを考えることができた。</p> <p>関連教科:理科14時間、総合的な学習の時間1時間</p> <p>課題設定・実験検証・まとめ</p> <p>・地層のでき方には、流水によるものと火山によるものに分けられることを知り、私達が住む地域の大地は、どのように作られているかについて予想し、その解決方法を考える考えることができた。</p>	<p>単元名：自然とともに生きる(生態系を守る)</p> <p>・これまでの学習を振り返り、持続可能な社会を作るために、私達自身でできることについて取り組むことができた。</p> <p>関連教科:理科3時間、総合的な学習の時間1時間</p> <p>調べ学習とまとめ</p> <p>・空気や水、エネルギーなど、人間の活動が、地球全体の環境に与える影響についてこれまで学んできたことについて振り返ることができた。 ・今後の自然と人間のかかわり方について、身近な地域の自然環境と自分の生き方とのつながりを意識し、考えをまとめてきた。 ・全校児童の前で、6年生が取り組んで製作した「ザリガニ堆肥」を、自分達の思いを伝えた上でプレゼントすることができた。</p>							
													

3.得られた成果
・3年生が取り組んでいる水辺体験学習では、機関庫の川で捕れたザリガニや魚の数を集計している。今後も、集計を継続し、6年生が機関庫の川の生態系について考える際に、データがより妥当性のあるものとしていきたい。
・豊成小学校の6年生の伝統の学習として、ザリガニ堆肥作りの取組がしっかりと浸透している。今まで学習してきた取組や経験の集大成として、生物の命と外来種、私達の環境とのつながりを結び付けて、主体的に活動することができた。

4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果
・食物連鎖や外来種を扱う「生物どうしのつながり」の発展的な学習として、自分達の自然環境の中で進めることができています。地域の自然とともに生きる自分達の手でできる活動として、在校生へのザリガニ堆肥のプレゼントを残していく学習の流れが定着している。
・今後も、他学年が捕採した生き物の数のデータを残すこと、自分達自身が活動の取組を担っていくことなどを継続していきたい。機関庫の川を扱った学習材の開発し、様々な方法で展開していきたい。

チーム豊成の力を高め、「潤いと勢い」のある学校づくり

Connect



帯広市立豊成小学校 キャリアプロジェクト通信

令和6年5月29日
NO.1 文責 河村

キャリア

サケの稚魚を放流しよう～川をつながいを考える～

4月30日（火）に、昨年の10月から学校内の水槽で大切に育ててきたサケの稚魚を放流しました。

この活動は、地域ボランティアの石垣さん、とちかち帯広サケの会の千葉さんや伊藤さんのご指導やご協力をいただきながら、例年3年生が実施しているキャリア教育となります。



サケの稚魚

放流の取組をより意義あるものにするために、3年生の先生方と協力し、事前にサケに関する動画を見たり、大型地図を使って川から海をつながいを確かめたりすることができました。サケの稚魚放流の学習を通して、機関庫の川以外の川の場所や名前も調べるきっかけにもなりました。

振り返りのワークシートを見ると、十勝川流域のイメージをもつことができた子どもたちも多かったようです。実際の放流場面では、カップに入った稚魚をじっくり観察したり、稚魚が川にとどまっている様子を優しく見守ったりする姿がありました。

今後は、サケの稚魚を放流した経験をきっかけに、機関庫の川のことでも不思議に思ったことや調べてみたいことを見つけ、自分達で課題を設定し、探究を進めていく学びを展開していきます。



～サケの稚魚放流を振り返って～

- ・サケのちぎょがすごく元気で、コップの中ではなでいてびっくりしました。大人になって帰ってきたサケに会いたいです。
- ・楽しかったけど少しさびしかったです。がんばって帰ってきてほしいと願いながら放流しました。
- ・小さいサケの赤ちゃんが川から海まで行くなんてすごいと思いました。
- ・これからサケは大変だと思ったし、もっとサケのことを知りたくなりました。

ライフジャケットを着用することで安全に関する意識を高めました。
自分達で正しくライフジャケットを着用することができました。

チーム豊成の力を高め、「潤いと勢い」のある学校づくり

Connect



帯広市立豊成小学校 キャリアプロジェクト通信

令和6年7月11日
NO.4 文責 河村

キャリア

機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境のつながり

5月1日(水)に、サケの稚魚を放流し、石垣さんから詳しくサケについてのお話を聞くことができた3年生の子どもたち。石垣さんのお話の中で、川で産卵を終えたサケは、水生生物のえさになり、卵からかえったサケの赤ちゃんは、水生生物を食べて大きくなることを知ることができました。サケと水生生物の繋がりについて知った子どもたちは、さっそく、機関庫の川に棲む水生生物を調べてみることにしました。



今年度初めて入る機関庫の川の学習は、とても楽しい時間となったようです。どの子どもたちも、川に入ることを怖がる様子もなく、昨年までの経験を生かし、素早く川の学習に入ることができました。水生生物がいそうな石を見つけて、トレイでその石を洗いながら、積極的に頑張る姿が見られました。この学習では、機関庫の川でサケが育つ環境が整っていることについて、改めて知ることができました。



6月27日(木)には、3年生みんなで機関庫の川に棲んでいる生き物探しをすることにしました。たくさんのザリガニやヤマメ、フクドジョウ、ハナカジカを見つけることができました。この日に見つけた生き物の中で、飼育できるものについては、機関庫



ホールの水槽で飼うことにしました。子どもたちの不思議に思ったことを解決していくために、引き続き、機関庫の川での学習を進めていきます。

「機関庫の川」で見つけたもの、不思議に思ったこと

- たくさん生き物がある場所とない場所がありました。川のはじの方にあみを入れると魚やザリガニを見つけることができました。
- 生き物をじっくりかんさつすることができました。ヤマメを見ると細長い形のもようがありました。
- ザリガニがたくさんいてびっくりしました。どうしてこんなにいるのかふしぎに思いました。
- きかんこの川は、どのくらいの長さがあるのかくわしく調べたいと思いました。
- 水生生物は、サケのように何かがんばっていることがあるのかについて知りたいです。

チーム豊成の力を高め、「潤いと勢い」のある学校づくり

Connect



帯広市立豊成小学校 キャリアプロジェクト通信

令和6年9月30日
NO.7 文責 河村

キャリア

機関庫の川と友達～機関庫の川の生き物を調べよう



8月28日(水)に、「機関庫の川と友達～機関庫の川の生き物を調べよう」と題し、今年度もNPO法人十勝多自然ネットの皆さんにお越しいただきました。十勝多自然ネット代表の野村さんから、川で学習する上での安全確認や本時のめあてについて説明をしていただき、水辺体験学習のスタートです。

6名のガイドの先生方から、魚を中心とする生き物の捕り方を教わった子どもたちは、それぞれバケツい

っぱいに生き物を捕ることができました。

中庭に戻ってきてからは、捕った生き物を種類毎に分け、その特徴を知る時間に入ります。

ウチダザリガニがたくさん捕れる理由、オスとメスの見分け方、ヤマメやウグイの違いなど、疑問に思っていることや今日の学習で発見したことなどについて、交流したり解決したりすることができました。

今年度は、昨年度に比べて「ウチダザリガニが少ない」「魚類のウグイ、フクドジョウ、ヤマメ、ハナカジカが多い」という結果となりました。ただ、個体数が年毎に大きく増減することはよくあることなので、詳しい理由はまだわからないそうです。これらの内容について、子どもたちが課題として取り組んでみてもおもしろいかもしれませんね。

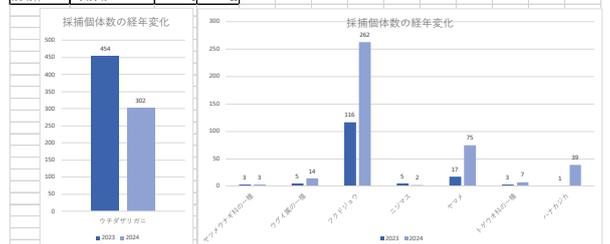
今回の学習の経験を基に、今後取り組んでいく子どもたちの学習の展開に期待です。



「十勝多自然ネット」の先生方へのお礼のメッセージより

- フクドジョウの表面がヌルヌルしているのは、川の下を泳ぎ、傷がつかないようにしていることを教えてもらいました。
- いろいろな魚やザリガニの捕り方を教えてくれました。自分達でも、どこに魚がいるのか、どうしたらたくさん捕まえることができるかを調べてみたいです。
- 機関庫の川にいる魚の名前をいっぱい知ることができてうれしかったです。

科名	種名	2023	2024
ザリガニ科	ウチダザリガニ	654	302
ヤマメウグイ科	ヤマメウグイ科の一属	3	3
フナ科	フナ科の一属	3	14
フクドジョウ科	フクドジョウ	116	262
コイ科	コイ	0	2
サケ科	ヤマメ	17	75
ウグイ科	ウグイ科の一属	0	7
カワガキ科	ハナカジカ	0	28



チーム豊成の力を高め、「潤いと勢い」のある学校づくり

Connect



帯広市立豊成小学校 キャリアプロジェクト通信

令和6年10月4日
NO.8 文責 河村

キャリア

生活科「川の学習」を帯広北高校のお兄さん・お姉さんと

9月10日（火）【1年生】・12日（木）【2年生】に、生活科の学習の一環として、「機関庫の川」を学習材に、川の学習を実施しました。

例年、豊成小学校では、「機関庫の川」沿いに隣接する帯広北高校の生徒の皆さんに、ボランティアの協力を依頼し活躍



してもらっています。両日

とも、約60人の高校生ボランティアの生徒の皆さんが来校し、子どもたちと一緒に川の学習に取り組んでくれました。

最初に、豊成小学校の子どもたちと高校生の皆さんでグループを作り、自己紹介をし合い、川に入る準備をしました。優

しくかわってくれるお兄さんやお姉さんの言葉掛けで子どもたちの表情が和らいだ後、いよいよグループ毎に活動がスタートです。今まで機関庫の川に入る機会がほとんどなかった子どもたちも、丁寧にサポートしてくれるお兄さんやお姉さんと一緒だと安心した様子です。みんなで約束をしっかり守って、終始笑顔いっぱいの楽しみながらの



学習となりました。

本実践を通して、季節を実感したり生き物とかわりあったりする学習に加え、初めて出会う人と距離を縮め、生き物の捕り方を一緒に考えるなど意欲的に活動できる学習となりました。今回の学習は、「人間関係形成・社会形成能力」を育むことができる大切なキャリア教育の実践の一つとなっています。



子どもたちの「学習カード」(機関庫の川の学習の発表会)より

- ・わたしは、あみでくさのなかをあさって、やまめをとりました。わたしのてのおおきさくらいでつつっていました。
- ・こうこうせいと、がんばってくさをざばざばしました。ちいさいザリガニが、いっぴきとれました。
- ・ウチダザリガニは、めがまるくてかわいくてすこしぬるぬるしていました。かわのにおいがしました。
- ・かわのまわりにくさがいっぱいはいっていました。かわのみずはすごくつめたかったです。
- ・こうこうせいのおにいさんが、さかなやザリガニをたくさんみせてくれました。きかんこのかわには、たくさんザリガニがいることがわかりました。

チーム豊成の力を高め、「潤いと勢い」のある学校づくり

Connect



帯広市立豊成小学校 キャリアプロジェクト通信

令和6年11月14日
NO.11 文責 菊谷

キャリア

「こだわりの農業」～和田さんの夢や思い～

安全でおいしいものを作り、元気で健康な毎日を・・・

キャリアプランニング能力の育成を目指します。ステキな大人の姿から自分の未来について考えます。

十勝の農業を体験し、その魅力を知り、発信する学習として、今年の5年生は、「中村農園」で玉ねぎの栽培を経験し、作物を育てる魅力や苦労を感じ取ることができました。そして満寿屋パンの社長さんとの地産地消のピザ作りで収穫の喜びを味わうことで、実際に十勝の素晴らしさを体験することができました。

農作物は、種を植えれば育つというものではなく、農家の方の深い愛情と、研究、努力の結晶であること。それを教えてくださるのが、帯広市基松町でごぼうを栽培する「和田農園」の和田政司さん。（校区内に住んでいます）5年生にとっては今年度出会う最後のステキな地域の大人です。

講演の前に、まず、和田さんのごぼうを試食してもらいました。ごぼうを揚げてさっと塩をふったものです。「あまいった!!」「おいしい！」子どもたちから驚きの声があがります。あまりごぼうが好きではなかったという子も、和田さんのごぼうに驚いた様子でおかわりをしていました。

和田さんがおいしいごぼうを育てるために力を入れていること、それは「土作り」です。人は食べ物から命をいただいています。その食べ物は土の栄養（命）をいただいています。その「土」を大切にしていかなければならない…。「土も生命」なのです。子どもたちの心にとても響く言葉でした。和田さんの土には、歯舞や三石から取り寄せた昆布の根や、米ぬか、酒かすなど、たくさんの栄養が含まれています。和田さんが長年研究を重ね、その年の天候や状況に合わせて、配合を工夫しているのだそうです。ミネラルたっぷりのこだわりの土作りは、「みんなに安全でおいしいごぼうを食べてもらいたい。」「みんなに健康でいてほしい」という和田さんの夢やねがいです。情熱をもって作物を育てていることが伝わりました。また豊成小学校の6年生が作るザリガニ堆肥もミネラル豊富なよい土づくりに大切だというお話も聞くことができました。

..... 児童のふりかえり

- ・和田さんのごぼうを食べて、こんなにやわらかくておいしいんだ！とビックリしました。ミネラルいっぱい栄養がある土を何年も研究して努力することがすごいです。私も努力してよいものを作りたいです。
- ・和田さんの畑のミネラルと、豊成小の花壇の土は、似ているかもしれないとわかりました。ザリガニ肥料を来年6年生になったら頑張って作っていきたい。そうすれば、おいしい野菜を作ることができるからです。
- ・ごぼうが嫌いで食べなかったけど、とてもおいしいことがわかった。給食のごぼうは和田さんのごぼうだから食べようと思う。

チーム豊成の力を高め、「潤いと勢い」のある学校づくり

Connect



帯広市立豊成小学校 キャリアプロジェクト通信

令和6年12月4日
NO.12 文責 河村

キャリア

豊成の自然と伝統を守る活動に取り組んでいます！

11月12日（火）に、6年生を対象に「生き物どうしのつながり」（理科）の学習を行いました。この単元の大切なキーワードである「食物連鎖」から「外来種」について着目し、学習を展開していきました。

具体的には、「外来種」にはどんな生き物がいるのか、どうして日本に来たのか、どんな悪影響があるのかなどについて、6年生のみんなで確認し合いました。

そこから、私達の身近な川（機関庫の川）に生息している「ウチダザリガニ」の駆除について、また、命についての考えを深める時間となりました。



その翌日、教室での学習を基に、6年生全員で、生き物の命の重さについて考えながら、翌年の農園活動に生かされる「命のプレゼント」として、「ウチダザリガニ」の有機肥料作りに取り組みました。この日も、熱心に作業に取り組んだ子どもたちですが、その作業を含め、計8回の繰り返し作業を実施しました。

初めは、腐敗臭が強い「ザリガニ堆肥」も、日数が経過するうちに、においも薄れていき、作業の後半になると、エビやカニのようないいにおいに変化する様子も感じ取ることができました。今回の作業で仕上がった「ザリガニ堆肥」は、3月7日（金）の「6年生を送る会」で在校生にプレゼントする予定となっています。

毎年6年生が行っているこの活動は、低学年の生活科の学習からつながりをもって取り組んでいる学習です。今後も、豊成のよさや学びを誇りとし、心と体を育てる「生きる力」を育成する授業を実践していきます。



ザリガニ堆肥の材料となっているのは、ウチダザリガニ（機関庫の川から捕獲したもの）4kg
米ぬか10kg おから10kg もみがらくん炭5kg
に、水を加えながらかき混ぜていきます。どの材料も、地域のお店や企業のご協力をいただきながら購入したものです。例年たくさんのサポートをいただいている地域の皆様へ感謝です。

チーム豊成の力を高め、「潤いと勢い」のある学校づくり

Connect



帯広市立豊成小学校 キャリアプロジェクト通信

令和6年12月23日
NO.13 文責 河村

キャリア

自然災害からくらしを守るために自分たちにできることは？



12月12日(木)に、豊成小学校のセンターホールで、4年生の単元「自然災害からくらしを守る」(社会)の学習を行いました。今回の学習では、帯広市のハザードマップを活用することで、身近なところから自分たちにできることを考えようとする態度を養うことを目標としています。

川や水資源が豊かな帯広市の利点を生かし機関庫の川や札内川を中心に、4年生の子どもたちは、この3年間でたくさんの河川学習に取り組んでいきました。

多くの川の魅力や素晴らしさを知り、川の学習が大好きな子どもたちにとって、水害を知るきっかけとなる今回の防災教育には、とても大きな意義があります。

授業の冒頭で、平成28年に起こった北海道や帯広市の水害の様子を伝える当時のニュースを見ました。「近い将来、平成28年のときのような大雨や台風が来たら、帯広市の川はどうなってしまうだろう」と真剣に考えます。そして、具体的にどのような場所で水害が起きるのか



について調べるために、

大型地図を使い、帯広市の主要な川に並び、ボールを水に見立て、実際にボールを渡していくアクティビティを実施しました。水量が多くなったり流れが速くなったりすることをイメージし、ボールの量を増やし渡すスピードも上げていきます。子どもたちから「川の合流地点でたくさんボールを落としてしまった」「渡すスピードが速くなるとついていけなくなった」などの意見があがり、体験を通して具体的なイメージができたようです。

ハザードマップで確認すると、水害が起こった際に豊成小学校付近には0.5m~3mの水量が迫る可能性があることを知り、その高さに驚く様子の子もたちでした。万が一の事態について真剣に考える貴重な1時間となりました。

ハザードマップで確認すると、水害が起こった際に豊成小学校付近には0.5m~3mの水量が迫る可能性があることを知り、その高さに驚く様子の子もたちでした。万が一の事態について真剣に考える貴重な1時間となりました。

子どもたちのワークシートより

- ・川がたくさんある帯広市は、水害の危険があることを知りました。
- ・大雨や台風が来る前に対策を考えておくことが大事だとわかりました。
- ・もしものときは、すぐに豊成小学校に避難したいと思います。
- ・災害があったとき、どうするかについて家族で話し合いたいです。
- ・ぼくの家は、札内川に近いので、もしものときの対策を考えたいです。
- ・これからの対策方法について考えてみたいと思いました。
- ・札内川の合流地点は、近くにある川が集まる場所だから大雨のときは注意しなければならないと思いました。

ふゆの川の学しゅうをまとめよう

2 がつ 26 にち

なまえ

1 ねん 1 くみ



みた



きいた



におった



さわった



おもった



川 の ようすをみにいきました。

生きものはみえませんでした。

はのしたは、いしがいっぱいでした。

みずがとてきれいだったのでびっくりしました。

ゆきとておりで川がせまくなるの

がわかりました。

ふゆの川の学しゅうをまとめよう

2 がつ 26 にち なまえ

1 ねん 1 くみ



みた



きいた



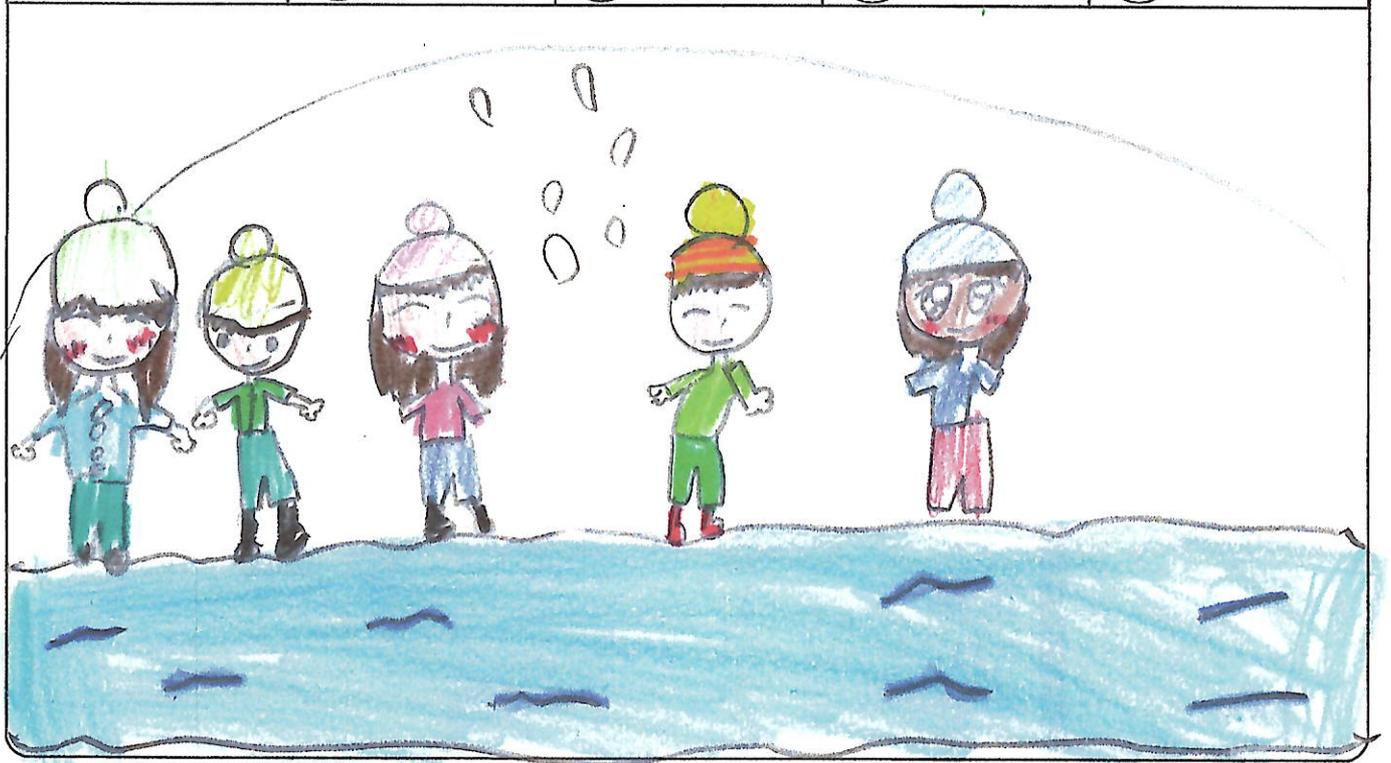
におった



さわった



おもった



ふゆの川は、こうしているところとこうでないところもありました。あしあともありました。川の中にはさかながいました。さかなはくさの中でねているのがあつくりしました。川にはいけなかったのでつきは、いきたいです。

ふゆの川の学しゅうをまとめよう

2がつ 26にち

なまえ

ねん

くみ



みた



きいた



におった



さわった



おもった



ふゆの川を見にいきました。川の中がち
っと見えずらかった。たてすたからあ
んまりいきものが見えませんでした。
おくにどえぶつかあからないけ
どおもしろいあしあしてでした。たぶん
キツネだておもいます。

冬の川を見てきたよ

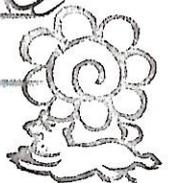
3月12日

名前

2年1組



わたしは冬の川を見てきました。
わたしの予想は冬眠かと思ってい
て、じっさいに見てみたらほとんど魚
やサニガニがいませんでした。冬の川
は、水の量がうえていました。水は
きれいでした。よく見たら、少しにお
っていました。ながれもはやいところ
とおるいところもありました。よくか
きうてきたから楽しかったです。

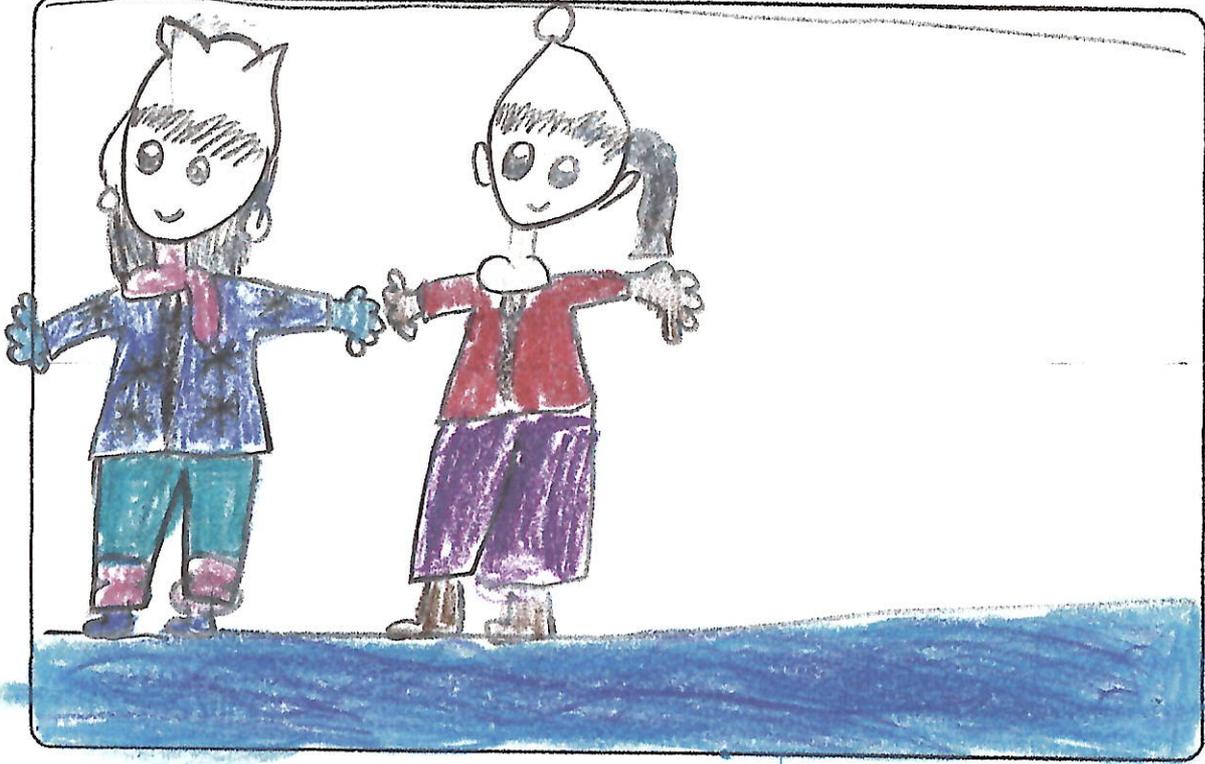


冬の川を見てきたよ

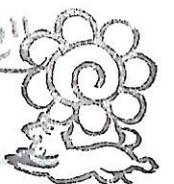
3月 12日

名前

2年 1組



今日は冬の川を見にいきました。おんどでは冬の川のほうがつめたいと思いました。ながれは夏の川が早かったです。冬の川はながれがおるいところがありました。ななめのりころはながれが早いのです。夏の川も水はきれいでしたがにぎやかなところもありました。冬の川はきれいでした。こおているところもありました。ザリがニわいぎものはいませんでした。来年も冬の川に行ってみたいです。それをもっとじっくり見られたらいいです。

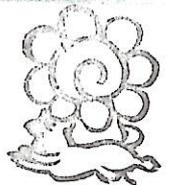


冬の川を見てきたよ。

3月 12日	名前
2年 1組	



今日は冬の川を見にいきました。夏とくらべなから見ました。ながれは夏とちがっておそかったです。トンネルの下はこおっていたかもしれません。夏とちがって魚もいませんでした。来年も冬の川を見にいきたいです。

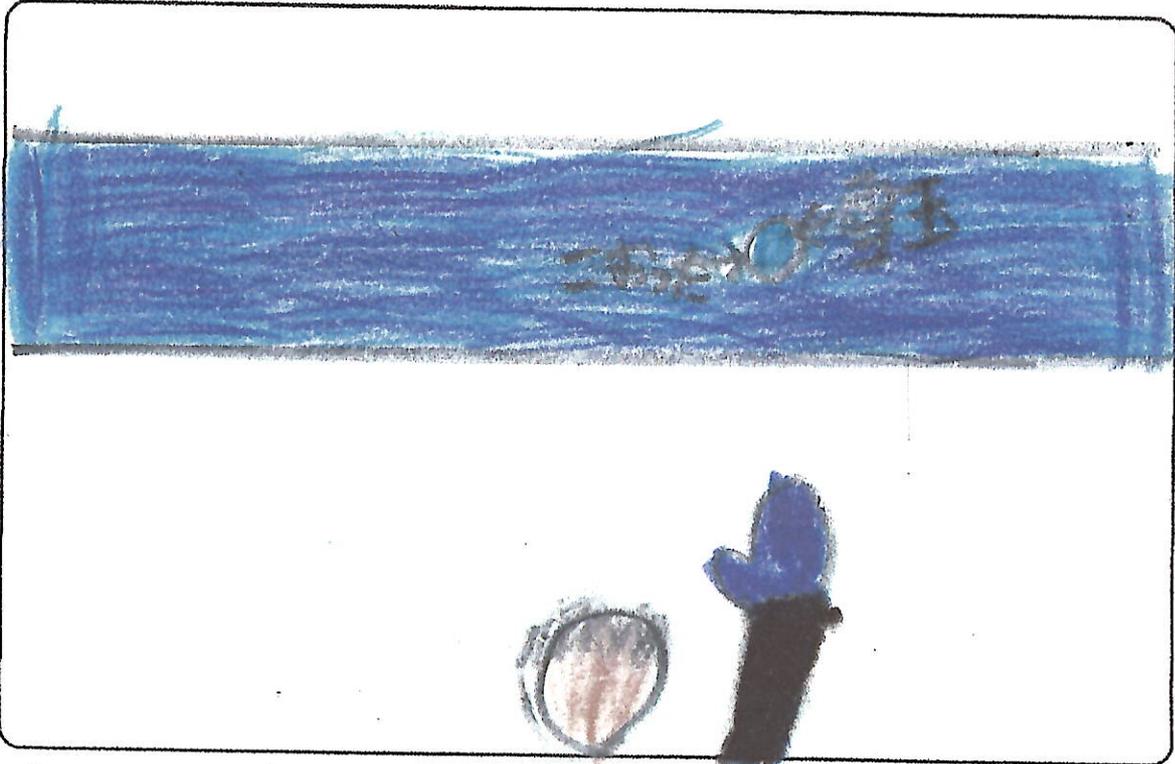


冬の川を見てきたよ

3月12日

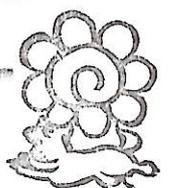
名前

2年1組



今日、冬の川を見てきました。冬の川の早稲たいらのところがおそくてななめは早稲たです。雪玉をなげたらすぐにこまりました。冬の川のはしは水がこあっていました。たぶんはしの下はひかげがこできているのでこあっていいるとぼくは思いました。

思ったことは冬の川のほうがながながおそいことが分かりました。



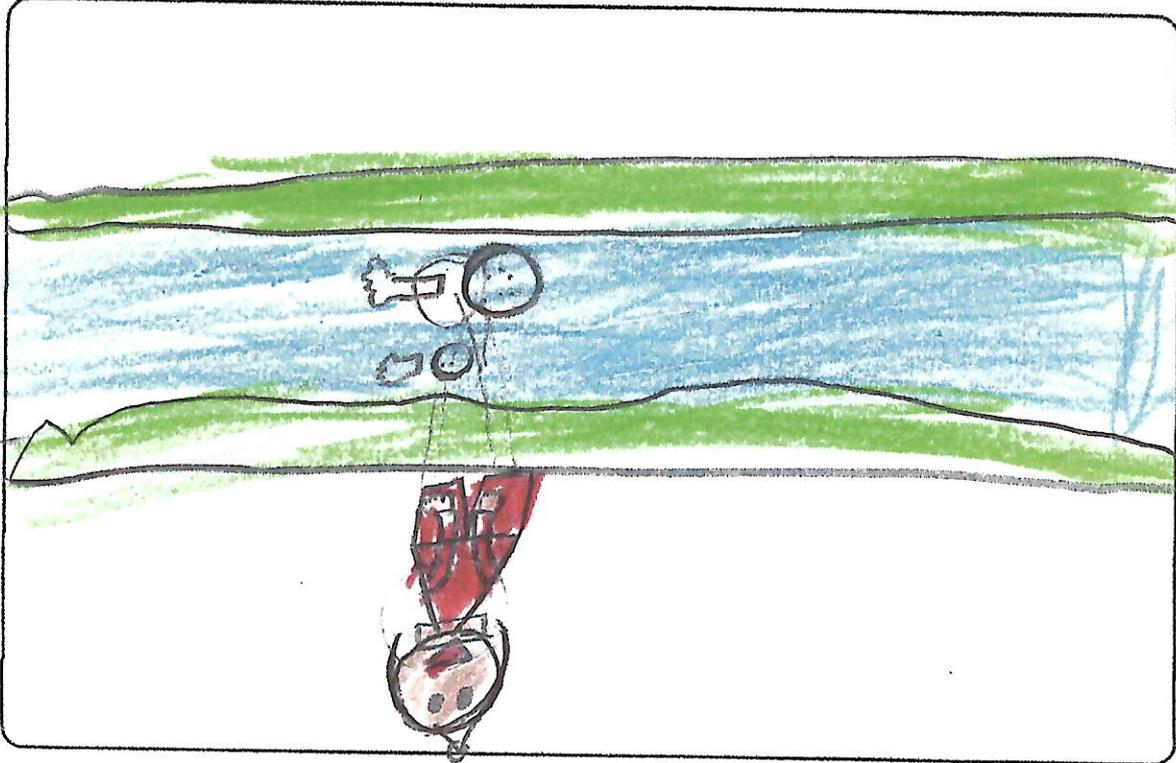
冬の川を見てきたよ

3月12日

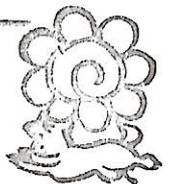
名前

2年1組

↓



わたしは今日冬の川を見に行きました。夏の川と冬の川だと冬の川のほうがながれがおそいと分かりました。大きいゆきだまと小さいゆきだまだと大きいたまのほうが早いのが分かりました。つぎの川学しゅうでもがんはります。





①研究や調査を通して学んだこと(川)

水生昆虫やさかなは草がわが川
の流れにそって漂ってくることも
学びました。

②研究や調査を通して学んだこと(発表準備もふくめて)

わたしは図かんにしずりがニヤ急の名前だけ
を書くと書いたけど色々なことがわが川
で生きているので大変もかかってよかった。

③研究や調査を通して学んだこと(仲間との協力)

メモや図かんを書くときチームみんなでアイデアを出
したり考えたりすることを協力しました。

④ゆたかの学習をする前と、この研究調査をした後の 自分でかわったことはありますか。

さいしょはきかんこの川にウチダザリガ
のこを知らなかったからたずねて
けどこの学習をしてからウチダザリガこ
を見つけようと思いました。

⑤未来のきかんこの川が、どうなっていいたらいいなと思 いますか。または、どうしていきたいと思いますか。

ウチダザリガこをへらしていきたいと思いました。
そのために川の学習で多くのウチダザリガこを見
つけたらいいと思いました。



ゆたか

名前

①研究や調査を通して学んだこと(川)

すいせい こん虫は

うまれ木ばかりのさけの赤うん人の食べものになること。

②研究や調査を通して学んだこと(発表^{準備もふくめて})

きかんこがわにいるうなぎは、八目うなぎではなく

スナヤツメうなぎだということを学びました。

③研究や調査を通して学んだこと(仲間との協力)

魚のしりいをタブレットでしるいのを

協力しました。

④ゆたかの学習をする前と、この研究調査をした後の
自分で変わったことはありますか。

自分はさいし、魚はおにもたべないと思、このので

水生こん虫をたべるとは、しりませんでした。

⑤未来のきかんこの川が、どうなっていくらいいなと思
いますか。または、どうしていきたいと思いますか。

ポイすこをへがすために、自分でもすこないし

和はこしているのをみたらひろいと思、こい

まな



ゆたか

名前

①研究や調査を通して学んだこと(川)

ザリガニは食でられることがわかりました。

②研究や調査を通して学んだこと(発表^{準備もふくめて})

スライドに書いていることと少しちがうふうに読むことがわかりました。

③研究や調査を通して学んだこと(仲間との協力)

言うところや写真をとったり、やりわりを決めて、1つの発表ができてうれしかったことです。

④ゆたかの学習をする前と、この研究調査をした後の自分で変わったことはありますか。

ウチダザリガニがあまりに入りやすくなりました。

⑤未来のきかんこの川が、どうなっていいたらいいと思いますか。または、どうしていきたいと思いますか。

ウチダザリガニとゴキブリがい、ニホンザリガニのいるきかんこの川です。



①研究や調査を通して学んだこと(川)

きかんこの川には、深い所とあさい所があるのがわかった。

②研究や調査を通して学んだこと(発表準備もふくめて)

最初は発表ってどうすればいいのかわかりませんでした。この発表でコツを付けて発表が楽しくなりました。

③研究や調査を通して学んだこと(仲間との協力)

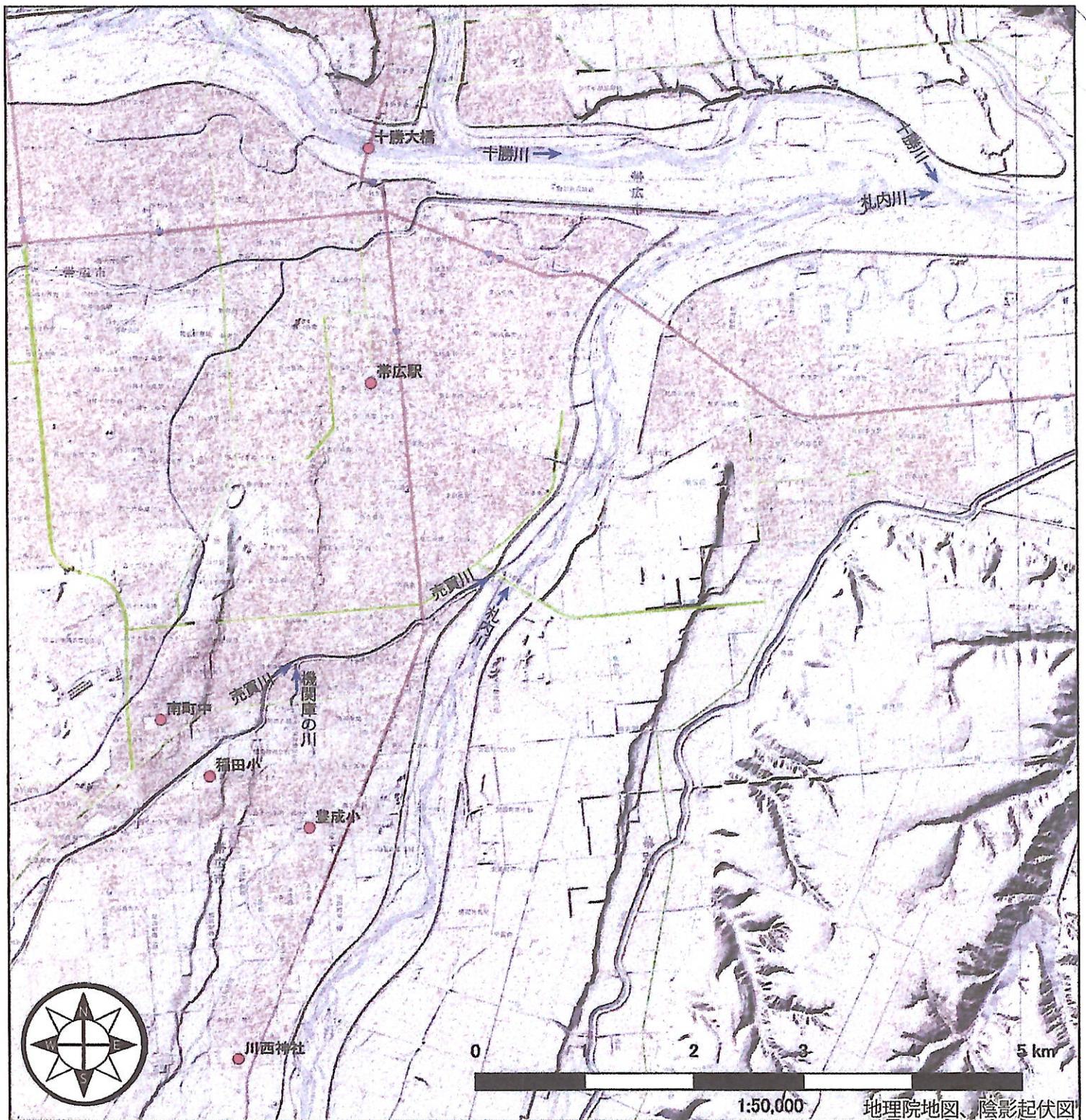
仲間がいると協力ができて、研究がすごいスムーズにできたから、友達と仲よくしたいと思いました。

④ゆたかの学習をする前と、この研究調査をした後の自分で変わったことはありますか。

はじめは自分のチームの目で「ようがうまくいくかどうか考えたのですが、かんはうたうそうでもよいということがわかりました。

⑤未来のきかんこの川が、どうなっていたらいいなと思いますか。または、どうしていきたいと思いますか。

もときかんこの川がきれいになって、ウチダザリがニからニホンザリがニとかわればいいなと思っています。



「風水害からくらしを守る」 4年(3)組(9)番 名前()

今日の学習でわかったこと、これからの学習や自分の生活に生かしていきたいことを書きましょう。

おひびきの川が3mぐらい水があふ、えきののがびくびくした。ボールでかわのうごきさせたらいいボールをおとしていたからこんなに台風や風水害がまた、川の氷が溶えることがわかりました。①川の近くがうなぎめ、水害がおきやす。台風がまた、川の氷の流れはよくなる。



水のゆくえ

きょうい たび
驚異の旅

名前

しずくになって、旅に出よう!

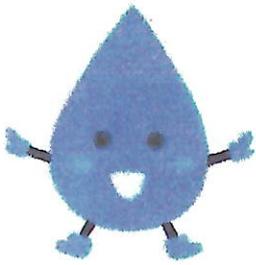
1	海	ぼしは海にすんで、波のたいに海にぬれる。海流で世界を流れる。南の国に行こうか。
2	雲	南の国は暖かくて、雲にたまる。雨がふると、山脈ができて、川が流れる。
3	氷河	山脈がたまる。雲のところに寒くて凍る。氷がたまり、氷河が流れる。
4	氷河	氷河が流れる。氷がたまり、氷河が流れる。
5	川	氷河が溶けると、川が流れる。川が流れる。
6	海	川が海にたまり、海がたまる。海がたまる。

海水
海
川
川
川
海

【おろかえり】植物の中の水は、土から蒸発して空気がたまる。世界の水量は変わらない。蒸発した水は、雲がたまり、雨がふると、川が流れる。川が海にたまり、海がたまる。

↓空?

H₂OをO₂からとります



水のゆくえ

きょうい たび
驚異の旅

名前

しずくになって、旅に出よう!

1	植物	木にしみこんで、仲間たちとくらして いました。
2	雲	さみしかったけどじょう 発して、雲に なりました。空を旅しました。
3	湖	ほくは気づけは雨となり、湖とな りました。
4	↓	また、天気は変わりません。ちかう旅か したい。
5	雲	やっとじょう 発して、雲になりました。 やったー!
6	氷河	寒いところで雨になって、氷河になりま した。それからここでくらしてります。

【ふりかえり】

お話を作ってるうちに、水の以動のしかたがわか
かりました。雲の以動のしかたがわからな
かたけど、わがて楽しかったです。

課題 外来種について考えよう

(1) 外来種を知ろう

1.名前	2.どうして日本に来たの?	3.何が悪いの?
ウチダ ザリガニ	食用としての養はくのために持ち込まれた。	水生植物に景観を与える。絶滅危く種のエビザリガニを捕食したりする。競合も与える。
オオハン ゴンソウ	かん賞用に持ち込まれ、野生化した。	温原などで貴重な在来植物と競合しにくくなる。
セイヨウ オマハハガキ	トマト等の農作物に粉用に広く利用され野外に定着した。	在来のマルハナバチやすみかやえさをめぐり競合で減少する。植物のはしくにも景観を損なう。

(2) 何が悪いのか

食物連さの関係がこわれる。

農林水産業へのえいさ。

人体へのきけん。

(3) 振り返り

ウチダザリガニをぶしてひ料にすることしか考えてなかったけど、この学習をして、ウチダザリガニの命が次の命につながることも分かったので、そのことを頭に入れくじょしたいと思いました。外来種は、植物や自分たちにもひかいはたえるので、生物を持ち込むのをやめたりして食物連さを整えていきたいです。

課題 外来種について考えよう

(1) 外来種を知ろう

1.名前	2.どうして日本に来たの?	3.何が悪いの?
ウチダ ザリガニ	食用として	小さい生物を食べたり すみかをうばう 水生植物にえいぎょうをあたる
ヘアカゴククモ	貨物などに まがれて、こちに来た。	メスが目をこらすため危険
フイリマン グース	ネズミやハブの餌の目的	在来種を食べる 農作物へのひがし

(2) 何が悪いのか

食物ねんさの関係がこわれる

農林水産業へのえいぎょう

人体のきけん

(3) 振り返り

外来種は危険だしめいわくだけと大事な一つの命ということがわかりました。

課題 外来種について考えよう

(1) 外来種を知ろう

1.名前	2.どうして日本に来たの?	3.何が悪いの?
ウチダザリガニ	食用としてのために持ち込まれた。	さまざまな小動物をほ食、水生植物に影響を与える。ニホンザリガニをほ食
アライグマ	ペットとして捨てられたり逃げたものが定着した。	スカタウモロコシなど農作物の被害。お寺などの歴史的建造物に爪をづたり天井に穴。
アカゲザル	実験や展示の目的で飼育されている。飼育体が逃げ出して定着した。	在来種ニホンザルとの交雑が発生している。

(2) 何が悪いのか

食物ねんさの関係がこわれる

農林水産業へのえいきょう

人体へのきけん

(3) 振り返り

今日外来種の生物をたくさん知れました。ウチダザリガニはニホンザリガニよりすごく大きい事を知りました。ウチダザリガニは川とイにたくさんいるのでひょう作りを協力しておんはつたいです。

帯広市立豊成小学校 1年1組 学級通信

なかよし

やさしく きょうりよく さいごまでがんばる

令和6年 9月13日(金) No.44

楽しく勉強になった川の学習

10日の2・3時間目に、川の学習がありました。帯広北高等学校の2年生がボランティアで来てくれて、1年生2人にお兄さんかお姉さんが1人ついてくれました。1年生は、とても嬉しそうに手を繋いで、優しいお兄さん、お姉さんと一緒に川に行きました。

川に入って、草の根元を足でドンドンしたり、網で擦ったりすると、ザリガニが捕れました。このザリガニはウチダザリガニという外来種になるので、在来種が食べられないように捕獲して肥料にしています。他にも、フクドジョウやヤマメやカジカという魚も捕れました。こちらは在来種なので、観察した後は、川に戻しました。

川の水は少し冷たかったですが、1年生は高校生と仲良く川の学習をすることができました。最後に、「ありがとうございます。」お礼を行ってお別れをしました。何度も手を振って名残惜しそうでした。





スポ健委員会の「せんオニ」をしたよ！

スポ健委員会の企画で、12日の中休みに1年生で「せんオニ」をしました。「せんオニ」とは、線の所を歩きながらする増やし鬼ごっこです。1組のオニは、はるまさん、れあさん、あきひささんでした。オニは、他のクラスの人をタッチして、タッチされない人が多いクラスが勝ちでした。結果は、なんと1組が一番多く残り、勝ちました。楽しい中休みになりました。 ～オニの準備～ ～みんなにげて！～ ～つかまらなかったよ！～



写生会でミニホイローダーを描いたよ！

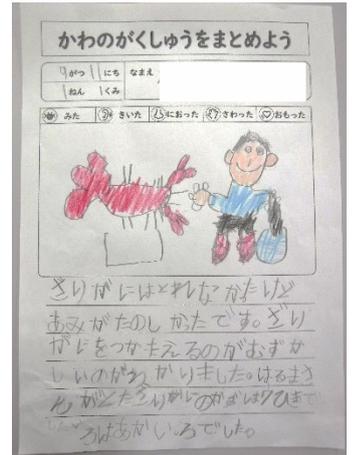
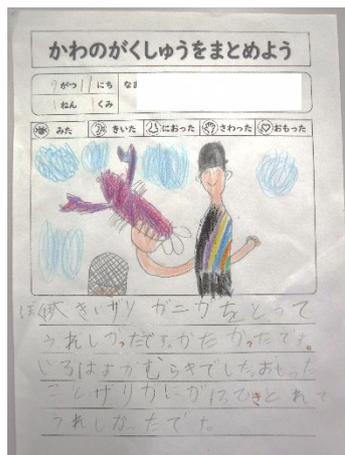
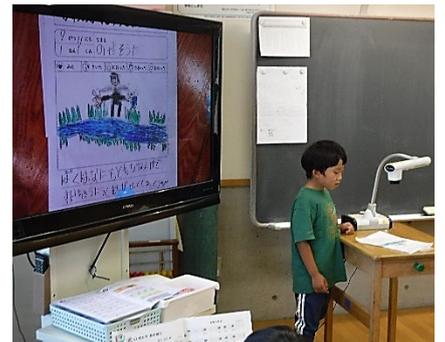
12日の図工は、写生会でミニホイローダーを描きました。敷物、クレヨン、画板を持って、外にあるミニホイローダーの所に行って、実際によく見て描きました。みんなは、車体やタイヤの色や形、どんな部品があるかよく見て描いていました。完成するまで頑張っ
て描いて欲しいと思います。





川の学習のことを発表したよ！

10日の川の学習でしたことやわかったことを、学習カードに書いて発表しました。聞いている人は、「声の大きさがよかったです。」「絵がとても上手です。」と感想を発表したり、「ザリガニは何びきつれましたか？」「フナドジョウはとれましたか？」など質問したりもしました。少しずつ、聞いたことに対して感想が言えるようになってきました。子どもたちの学習カードを4名紹介します。



にっこり◆きらら

みんなの「にっこにおひさま」



げんき やるき おもいやり

豊成小学校 1年3組 学級通信 令和6年9月20日 NO. 28

川の学習～北高のみなさんと～



かわのがくしゅうをまとめよう

9がつ 11にち なまえ
1ねん 3くみ

①みた ②きいた ③におった ④さわった ⑤おもった

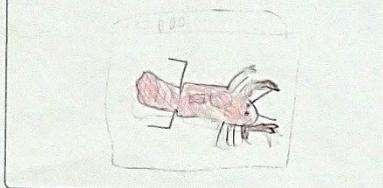


ちいさいザリガニがいて
かおいかたでまにおいさがら
かわとおいにおいたたて
まざわらつるつるしました。こ
うこいといかんばつていひき
やましたくさかまざいしたる
とれました。

かわのがくしゅうをまとめよう

9がつ 11にち
1ねん 3くみ

①みた ②きいた ③におった ④さわった ⑤おもった

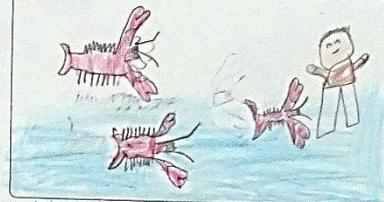


みんかもはげさみがつまそつ
をいてみたからパタパタしてました。
におてみたからどろのにおいでして
さわてみんからつるつるしてました。
おもてこまは2つさわて来て泳ぐか
です。

かわのがくしゅうをまとめよう

9がつ 11にち な
1ねん 3くみ

①みた ②きいた ③におった ④さわった ⑤おもった

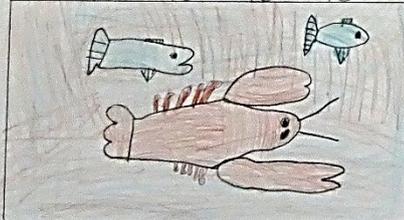


ザリガニのうらがしうとあかかった。
おあおいところか
かよかよ2ひちとれて泳
しつたよまきみかかこよか
た。

かわのがくしゅうをまとめよう

9がつ 11にち なまえ
1ねん 3くみ

①みた ②きいた ③におった ④さわった ⑤おもった

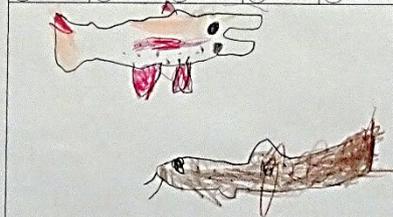


めがまるくてかわいくて
ぬるぬるしてました。
かわのにおいがありました。
うちたどりがいのはさみの
あおいところがかよこよ
とおもいました。

かわのがくしゅうをまとめよう

9がつ 11にち なま
1ねん 3くみ

①みた ②きいた ③におった ④さわった ⑤おもった

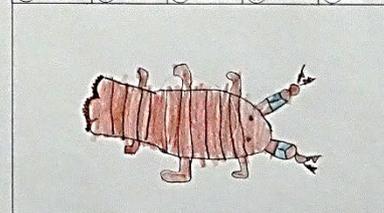


けいさくをいひまつかま
えました。おあおいところ
きつかえました。
こまよてたのれかた
です。

かわのがくしゅうをまとめよう

9がつ 11にち
1ねん 3くみ

①みた ②きいた ③におった ④さわった ⑤おもった



ワタザリガニが2ひちも
つれてうれしかった。さわた
つるつるしてました。
つめがうそつてかよこよか
た。またやりたい。

先週川の学習をしました。北高のお兄さん姉さんが来てくれて、ライフジャケットを着るのを手伝ったり、手をつないで川まで連れて行ってくれたり、一緒に生き物を捕ったりしました。とっても優しいお兄さんお姉さんにうれしくてたまらない表情の子どもたちでした。

川に入ると水が冷たかったのですが、網を川の底に付けて足で追い込んで魚やザリガニをとりました。網に魚が入っていたときには、とてもうれしくて「先生、見て〜!」とあちらこちらから声が上がり、捕れたものを見せてくれました。フクドジョウやヤマメ、ハナカジカ、大小さまざまなザリガニが捕れました。

次の日には、川の学習の振り返りをしました。見たこと、聞いたこと、におったこと、さわった感じなど詳しく絵と文章でまとめました。その後は、かいたものを交流し合いました。とても楽しく学習でき、来年またやるのを楽しみにしていました。





☆じぶんでがんばる

☆みんなでがんばろう！

☆ともだちにがんばれ

帯広市立豊成小学校 1年2組 学級通信 令和6年10月8日

川の学習～北高のみなさんと



9月の中旬に、川の学習をしました。北高のお兄さんお姉さんが来てくれて、ライフジャケットを着るのを手伝ってくれたり、一緒に生き物を捕まえたりしました。

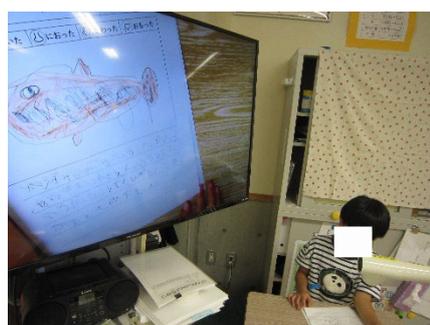
まずは、お兄さんお姉さんたちと自己紹介をして、名前を覚えてもらい、1年生のみんなも自己紹介をしました。初めは恥ずかしがっていた1年生でしたが、優しいお兄さんお姉さんたちと活動できることがうれしくてたまらない様子でした。

手をつなぎ川まで一緒に歩いて行き、さっそく川に入ります。川の水は冷たかったのですが、網を川の底に付けて足でガサガサしていきます。何度も挑戦していくと、網の中に魚やザリガニが！

「見て見て〜。」とあちこちで声が上がっていました。寒かったので途中で「休もう。」と高校生が言葉を掛けてくれましたが、みんな生き物さがしに夢中でした。

次の日には、川の学習で見つけた生き物をカードにまとめました。見たこと、聞いたこと、触った感じなどを、絵と文章にかいていきました。写真はテレビを使って、見つけた生き物を発表しているところです。

川の学習では、着替えや川用の靴の準備など、ありがとうございました。



○前期の学習の成果をみていただくために、黄色いファイルを持ち帰っています。

ご覧いただきましたら、11日（金）までに持たせてください。

○カタカナのテストがありました。しっかりと覚えている子もいますが、まだまだ練習が必要です。宿題や朝の学習などで取り組んで、再テストをします。ぜひご家庭でも練習してみてください。

○学習発表会の取組が始まりました。鍵盤ハーモニカの練習も多くなります。学年だよりでもお知らせしましたが、ハンカチやティッシュを忘れずに持たせてください。

○国語は下の教科書を忘れずに。ノートは、国語も算数も新しいものになっています。間違えないように確認をお願いします。

にっこり◆きらら



げんき やるき おもいやり

豊成小学校 1年3組 学級通信 令和7年2月28日 NO.50

～冬の川を観察したよ！～

とても天気がよく、暖かくて絶好の観察日和でした。冬の川の様子をじっくり見て様々なことがわかりました。





川の水はとても澄んでいて、川底の土や石、枯葉などがくっきりと見えました。雪が積もった川岸には凍っている部分があり、氷の結晶が面白い形やきれいな模様になっていました。水面には波紋もできていて、お日様に照らされて、きらきらと輝いてとてもきれいでした。雪の上には、動物の足跡も何種類もあり、「水を飲みに来たんじゃない。」と予想する子もいました。川が流れる音を聞いた子や、魚を見た子もいます。橋の下まで行ってみると、雪がなくお日様が当たらないのでほぼ全面が凍っていて、川岸にはジュエリーアイスのような氷が打ち上げられ、子どもたちは手に取って氷の感触を楽しんでいました。夏は、川に入って生き物を捕る楽しみがありますが、冬の川にはきれいさがあり、楽しい観察になりました。(*へへ*)

2がつ26にち なまえ [redacted]
1ねん3くみ

みた ② さいた ③ におった ④ さわった ⑤ おもった

川には、さかながいました。川のまわりには、ゆきと、足あとがあります。でかいこおりをきりました。つるつるとした。川はちろちろとり音がしました。いっしょに見たので、またいっしょに見たいです。すていとおもいました。

2がつ26にち なまえ [redacted]
1ねん3くみ

みた ② さいた ③ におった ④ さわった ⑤ おもった

川のまわりは、こおりがありました。こおりのようがきれいだったです。水のようはすくなかったです。音はポチャポチャしてました。水はながれてました。またいっしょに見たいとおもいました。



2がつ26にち なま [redacted]
1ねん3くみ

みた ② さいた ③ におった ④ さわった ⑤ おもった

大。ばい足あとがかりました。ポチャ音がしました。いっしょに見たので、またいっしょに見たいです。すていとおもいました。

2がつ26にち [redacted]
1ねん3くみ

みた ② さいた ③ におった ④ さわった ⑤ おもった

川の音をききました。ちろちろとり音がしました。こおりをみました。ゆきのしょうみたいたした川のまわりには足あとがありました。なんの足あとかわかりません。こおりがつるつるとすていとおもいました。

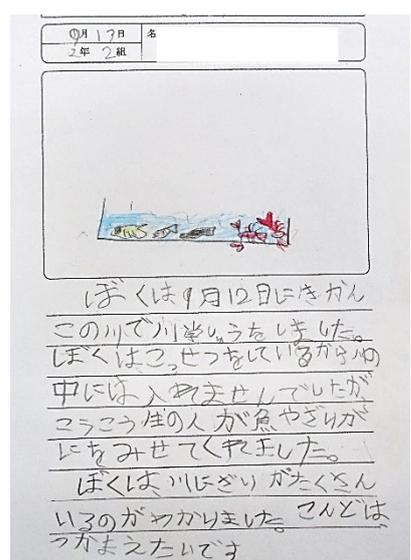
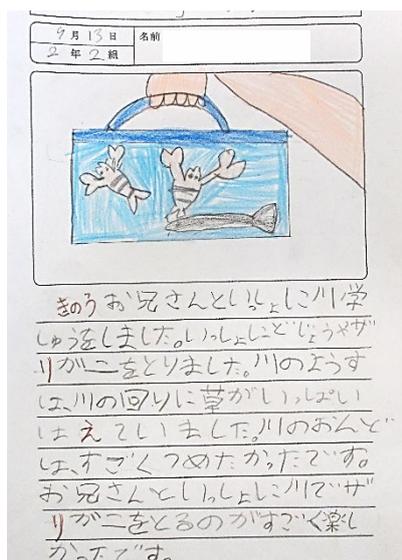
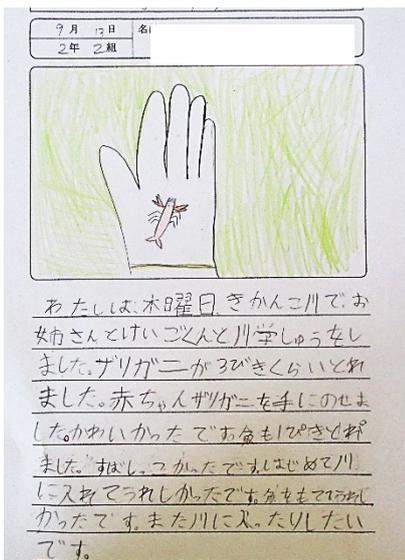


9/12 「川の学習」がありました



今年も北高の生徒さん達がきて、一緒に川の学習を行いました。3、4人のグループになり、お兄さん、お姉さん達がリードしてくれる中で、川に入りました。生き物を探したり、川の様子を見たりして、楽しんでいる姿がたくさん見られました。捕まえたザリガニや、ヤマメなどの生き物は、ケースに移してみんなで観察したのち、魚は川へ帰し、ザリガニは例年通り、畑のたい肥に生まれ変わります。

川学習後、振り返りの絵日記を書きました。今回は、左から、さん、さん、さんの振り返りを載せました(^^)



Team

チーム

なりたい自分に
みんなのために

さけの稚魚を 放流しました

延期に次ぐ延期になっていたさけの稚魚の放流を、やっと行うことができました。
子ども達も「やっとできた！」と喜んでいました。

豊成小学校は、総合的な学習の時間を「ゆたか」の学習とし、“生き方”を学ぶ大切な時間として重点を置いています。今回の学習では、河村主幹教諭から「命を守る」大切さについても話があり、みんな真剣に聞くことができました。子どもだけで川に行かないことや、川に行くときには、ライフジャケットを着用することについてです。

さけの稚魚を1人1匹ずつプラコップに入れて持ち、川べりにしゃがんで、そお〜と流しました。
「がんばれー!」「海まで行くんだよ〜。」「帰ってくるんだよー!」など言葉を掛けながら、送り出す姿がかわいらしかったです。

着替えや、長靴の準備、ありがとうございました。今回は、川べりに立ち、足先が少し濡れる程度の活動でした。6月の川の水温が上がる頃には、ライフジャケットを身に付けて、川に入ります。そのときには、汚れてもよい長そで長ズボンの服と、運動靴が必要になります。サイズアウトしそうな古い靴や、川専用にしてもよい安い靴を用意しておくともよいです。クロックスや長靴で、川に入ることはできません。流されてしまうからです。また、水遊び専用の靴よりもスニーカーのほうがよいです。川の中には、枝が落ちていたり、硬い茎があったり、ザリガニもいたりするので、メッシュ部分に刺さると危険だからです。6月頃までに準備をお願いします。



Team

チーム

なりたい自分に
みんなのために

サケの先生、石垣さんのお話を聞きました

豊成小では、地域の方の協力を得て、学習を進めています。

先日、サケの稚魚を放流しましたが、今回は、詳しくサケについて教えていただきました。

「サケの体の色が変わることがわかりました。」
「サケが水生昆虫を食べていることを知りました。」

「アイヌ文化とかかわりがあるんだなあと思いました。」

「今度、スーパーに買い物に行ったら、サケを見ようと思います。」

「私はあまり鮭の料理を食べたことがないので食べてみたいと思いました。」

などと、感想があがり、子どもたちは多くのことを学んだようです。

座学でしたが、目をきらきらと輝かせながら、真剣に話を聞いていました。

私も石垣さんのお話を聞き、サケは卵を産んだ川に戻ってきて**生まれた日と同じ日に卵を産む**ということを知りました。何年もかけて、その検証をされたのが、石垣さんだそうです。すごい方ですね。

運動会後から、ゆたか(総合的な学習の時間)で、機関庫の川の調査をする予定です。

以前にお知らせした**川の用具**の準備をお願いします。

においのない川ですが、**ダメになってもよいものの方がよい**と思います。

川に入ってもよい長そで、長ズボン 川に入ってもよいスニーカー 軍手



花壇の苗植え



よさこいの練習



図工「ひもをつないで」

最近の学習の様子です。楽しく☆真剣に☆



スノードロップ

帯広市立豊成小学校
3年2組 学級通信
NO.11 6月21日
発行者 新谷昌也

川の学習

3年生はゆたかの時間に川の学習をしています。豊成小学校には機関庫の川という自然を学ぶのにとっても適した環境があります。この川の学習はこれから何回もあります。着替え等の準備など、大変な面があると思いますが、よろしくお願いします。





ポジティブ☆

帯広市立豊成小学校4年2組学級通信No.19令和6年7月19日(金)発行 文責：川崎 律子

もいだくさんの4日間でした

今週は、郷土体験学習に始まり、プール学習、ごみについての出前講座、クラブ活動、わくスマ集会など…、イベント盛りだくさんの1週間でした。連日30度越えの暑さの中、子どもたちは楽しみながらたくさん学びましたよ。1学期の登校日もあと2日です。みんな元気に過ごせますように！

エールセンター



水生生物調査をしました。カゲロウやトビケラなど、きれいな水に住む生物がたくさん採れました。数えてみると60匹以上いた班もあったとか…！？



パックテストで水質を調べました。班で役割分担をして協力することができました。札内川はとてもきれいで、生き物にとって住みやすい川でした！



浅瀬横断のフォーメーションを確認しています。向こう岸までたどり着けるかドキドキ…。



先頭の律澄さんと最後尾の惺凧さんの水位を比べると、大きな違いがあることがわかります！どの班も無事に渡ることができました。



最後はお楽しみの川流れです。最初は恐る恐るだった子どもだんだんコツをつかんできたようです。暑い日だったので、とても気持ちよかったです。服が濡れて重くなる感覚や、浅く見えても流れる力が強いということを実感できたと思います。



くりりんセンター



真剣に話を聞いて、メモをとっています。教科書で学んでいたことと結び付いていい学びになっています。



くりりんセンターの見学コースを案内していただきました。実際のごみ処理の様子を見学したり、模型を見ながら仕組みを学んだり。各箇所に音声案内があったり、模型を動かすボタンがあったり、今回は時間都合都合上触れないものもありました。「もっとゆっくり見たかった！」との声も。いつでも見学ができるそうなので、夏休みにご家族で行ってみるのもいいかもしれませんね★



ごみについての出前講座



まず、ごみ収集について学びました。分別の大切さを改めて感じた様子の子もたち。次に、ごみのパトロールについて教えてもらいました。ゴミステーションを見て回り、きちんと分別ができていない場合は、中身を調べて、そのお宅に行って指導をするそうです。(川崎も初めて知りました！)ごみのポイ捨ては罰せられることも教えてもらい、とても驚いていました。最後にごみの収集体験です。透明になっており、横から様子が見えました。

今日のごみ収集やごみの分別について教えてくださりありがとうございました。

特におどろいたのは、ゴミステーションが1万かしょもあることです。あと、ポイ捨てをすると重いつみになることがわかりました。あと、ごみを見られているのも知りました。

これからは、なんとなくで分別するのではなく、しっかりいろいろな人や機械のことを考えてごみを捨てたいのと、できるだけごみを出さないようにしたいと思い、そのための工夫をするのが大切だなと思いました。

()

ロッカーの荷物を少しずつ持ち帰っています。必要に応じて**大きめの袋やかばんの用意をお願いします**。また、持ち主不明の落し物は1学期末で処分しますので、紛失しているものがないかお子さんとご確認ください。

#二 SUNNY

晴れた日のように

防災教育～帯広の水害～

9月に社会で「自然災害からくらしを守る」という学習をしました。その時には、十勝の地震について扱いましたが、水害については詳しく触れることができませんでした。



十勝川・札内川・売買川・機関庫川と、たくさんの川に囲まれている豊成小学校の子どもたちだからこそ、水害について考えてほしいということで、模擬実験を取り入れた水害の学習を河村先生が行っていただきました。

2018年、短期間で2度台風が来たために川が氾濫したときの浸水の映像を観ました。橋が崩れていたり、家が半分の高さまで水に浸っている様子を、食い入るように見ていました。

センターホールにある大きな地図を利用し、子どもたちが機関庫川、十勝川、札内川、売買川の4つの川に沿って立ち、玉入れの玉を水に見立て、テンポを合わせて隣に手渡していきます。



初めは、ゆっくりテンポで1つずつ玉を手渡していきましたが、2回目は水害場面にするために、玉を2個ずつにし、渡すテンポをはやくしました。川の上流の子たちはそれほど変わりがないのですが、川の合流地点、とくに機関庫川と十勝川と札内川の3つが合流した地点の子は、6つの玉をいっぺんに受け取って渡すのですが、テンポが速くてぼろぼろ玉を落としてしまいました。さらに、売買川も合流した地点では、8つの玉がいっぺんにやって来るので全部受け取るのはたいへん！



この玉のたくさん落ちてしまったところが川の氾濫が起きやすいところだと、体験を通して視覚的に理解できました。



今回の学習で感じたり考えたりしたことが、今後自分が被災の可能性のある場面での行動に活かされるといいですね。





帯広市立豊成小学校6年3組

学級通信 No.29

令和6年11月13日 発行 本間啓介

5年生に修学旅行の学びを発表しました♪



11月7日(木)のゆたかの時間に、修学旅行で学んだことを5年生に向けて発表しました。自主研修のグループ毎に、修学旅行で見学した施設やお店、学んだことなどを5年生にもわかりやすいように工夫しながらスライドにまとめたり、5年生の方を向いて話したり上手に発表することができていました。プレゼンテーションソフトを使って説明する力が付いてきていることを感じました。



早く終わったグループは、修学旅行に関する質問タイムを設け、盛り上げながら5年生の質問に答えるなど先輩らしい姿で感心しました。

発表会終了後に、5年生からもらった振り返りのカードを見てみると、「発表がわかりやすくて面白かった。」「修学旅行が楽しみになった。」「来年行きたい場所が決まった。」などの意見が多かったです。みんなよく頑張りました。

ザリガニ堆肥を作りました♪



袋に入れたザリガニを金づちで細かくします。

12日(火)にザリガニ堆肥を作りました。他の学年が川の学習で捕まえ、駆除した外来種のウチダザリガニの命を無駄にしないための工夫です。また、毎年6年生が堆肥を作り、在校生にプレゼントをすることも豊成小の伝統となっています。今回は、冷凍保存していたザリガニを袋に入れて細かくしたり、おからなどの材料と混ぜ合わせたりする作業を行いました。今後は、肥料を定期的に混ぜ、発酵を進めるための作業を当番制で行っていきます。後輩達のため、ザリガニ堆肥作り、頑張ります！



袋が破けないように気を付けながら作業を進めます。



細かくしたザリガニを、肥料のもとになるものと混ぜ合わせます。



水を加え、さらにしっかり混ぜ米袋に入れました。

七転八起

修学旅行のまとめを発表



先日、5年生に修学旅行で学んだことを発表しました。切符の買い方やお金の使い方の注意点を説明したり、どこでどんなことができるかを伝えたりと、来年の修学旅行に繋がる発表が多くありました。今回は5年生に発表するということで、相手への伝え方をいつも以上に意識できていたと思います。これで修学旅行に関する学習が一区切りです。

ザリガニ堆肥作り



ザリガニを潰す

今回の学習では、堆肥作りを通して外来種が生態系に与える影響や、命のつながりについて学びました。

実際の堆肥作りは、それほど難しい作業はなく、ほとんど苦勞することなく終わることができました。今後、定期的にかき混ぜる作業を続けます。完成した堆肥は在校生にプレゼントする予定です。



潰したザリガニを
米ぬか・おから・もみがら燻炭と混ぜる

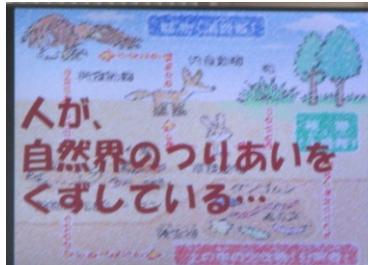
袋に入れて発酵

心に太陽を 持て

令和6年度 豊成小学校
6年2組 学級通信
担任 大谷 由実代
No.39 R6.11.14.

◆ザリガニ堆肥をつくろう◆

河村先生による理科「生物どうしのつながり」の外來種の学びから、生態系を脅かすウチダザリガニの駆除・有効活用について考える授業が行われました。外來種には、どんな生き物がいるか、どうして日本に来たのか、何が悪いのかを詳しく学びました。そして、豊成小学校の敷地にある機関庫川にいる外來種のウチダザリガニについて子どもたちが中学年で活動した写真も見ながら今まで学んだことを振り返りました。最後に、ウチダザリガニの駆除について考え、駆除の大切さやウチダザリガニの命についても考え、豊成小学校で受け継がれている「ザリガニ堆肥」づくりについて知りました。



12日、昨日学んだ堆肥作りにチャレンジしました。河村先生から作業方法の説明を受け、まずは、ビニール袋にウチダザリガニを入れて、タオルを巻いてかなづちで叩いて細かくする作業を行いました。「ザリガニかわいそう!」と言いながら「次の命へつなぐんだよね!」と友達と会話していました。その後、米ぬかなどの材料を混ぜ合わせ最後に袋に入れました。今後、定期的に袋から出し、かき混ぜて又袋に入れるという作業を繰り返し12月中旬完成予定です。3学期に在校生にプレゼントする予定になっています。自分たちは、卒業していないけど、在校生のために頑張ろうとする姿が見られる学習でした。



調理実習の様子です♪



前回に載せることができなかった、調理をしているときの様子です。

安全に、楽しく実習を行うことを意識して、調理道具を正しく使ったり、落ち着いて行動したりするなど素晴らしい調理実習でした。子どもたちも大満足の出来栄でした。



ザリガニ堆肥作り頑張っています！

ザリガニ堆肥作り、当番を決めて頑張っています。初回の作業では、発酵が進み、米袋から出すと湯気が上がるほど温かくなることに驚きました。においもかなり強くなりました。水を混ぜてかき混ぜる作業を進めるうちに、においはほぼなくなり完成が近付いてきています。

来週で、この作業が終了となる予定です。在校生にプレゼントする堆肥作り、この調子で頑張っ
て欲しいです。



調理実習大成功♪

11月28日(木)に、調理実習が行われました。今回の実習は、教材園で収穫されたじゃがいもを使用して、各グループ毎にじゃがいも料理を作るというものです。自分達で作り方を調べて、いもちやジャーマンポテトなどの定番料理に挑戦するグループもあれば、ガレットなどおしゃれな料理に挑戦するグループもありました。メインのいも料理の他に、栄養バランスを考えてもう一品副菜を作ったのですが、合計二品を作ることにになり少し苦労するのかなと思いましたが、どのグループも協力して、上手に調理を進めることができていました。自分達で役割分担をしたり、手が空いた人から片付けをしたり、もう手慣れたものです。



調理が終わったグループから試食です。自然と笑顔になるくらい上手に、美味しく作ることができ、どのグループも完食しました。

小学校生活最後の調理実習をケガ無く終えることができ、よかったです。料理の腕をまた上げましたので、ぜひご家庭でもいも料理に挑戦させてみてください♪

まるまるいもち
ほうれん草とベーコンのバターソテー



ジャーマンポテト
小松菜とツナのサラダ

ジャーマンポテト(チーズ入り)
ほうれん草のおひだし

じゃがいもとチーズのガレット
塩昆布キャベツ



コロコロポテトチーズボール
きゅうりとごま油の和えもの

いもち
やみつき無限きゅうり

じゃがいものチーズガレット
ベーコンと大葉のくるくる巻き

様式 14-3

[学校部門] 単学年・複数学年

[見られた子どもの変容]

助成番号	助成事業名	学校名
2024-7214-002	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校



学年：第1学年

学習活動名：生きもの大すき（9月10日）

見られた子どもの変容：

50名を超える帯広北高等学校の生徒の皆さんの協力を得て、1年生の生活科の単元「生きもの大すき」の学習について、充実した実践に取り組むことができた。川の学習に取り組む上で、最も重要であるライフジャケットの着用についてはもちろん、多くの大人の目で野外活動を実践できることには大きな意義がある。加えて、初めて出会うお兄さんお姉さんと距離を縮めつつ、生き物の捕り方を一緒に考えながら楽しく活動を進めることができた点についても、キャリア教育の観点から貴重な機会となっている。

本実践後には、話し合いによる振り返りに加え、後日、ワークシートにて、見て聞いて触って交流して学んだことについて、絵と文章で記録を残し、各学級にて発表会を実施することができた。

【子どもたちの感想】

- ・ザリガニがあしをうごかしていて、よくきいてみたらパタパタと音をならしていました。
- ・生きものをとるのがむずかしかったです。やまめがとれました。わたしの手の大ききくらいでつるつるしていました。

学年：第1学年

学習活動名：ふゆとなかよし（2月25日）

見られた子どもの変容：

冬の機関庫の川の様子を予想した上で、観察しに行くことができた。夏の学習では、生き物を捕ることが中心となったが、今回は、川の水の様子やその周辺の自然の様子に着目する様子が多く見られた。冬の川のきれいな様子を見た子どもたちは、たくさんの疑問や発見をもち、振り返りのワークシートにまとめることができた。

【子どもたちの感想】

- ・かわにはさかながいて、ゆきにはどうぶつのあしあとがありました。

様式 14-3

[学校部門] 単学年・複数学年

[見られたこどもの変容]

助成番号	助成事業名	学校名
2024-7214-002	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校



学年：第2学年

学習活動名：みんな生きている（9月12日）

見られた子どもの変容：

1年生の生活科で学習した経験を振り返り、導入時において、機関庫の川について覚えていることを確認し、今年度の学習の取組を進めることができた。帯広北高等学校の生徒の皆さんの協力を得ることができ、安全面においてはもちろん、キャリア教育の観点（人間関係形成・社会形成能力）において、大変貴重な機会を設けることができた。

昨年度の経験の基に、お兄さんお姉さんの力を借りながらも自分たちで手際よく準備を進める場面が多く見られた。2年生として、より広い視野で多くの視点から「機関庫の川」における生活科の学習に取り組むことができた。話し合いの場面では、川の生き物の様子や川の中やその周りの環境について体感したことを発表し合う様子が見られた。

【子どもたちの感想】

- ・ザリガニを手のにせてみると、すばしっこくうごいていました。どじょうやさかなもとれました。くさがたくさん生えていましたが、川のまわりがとくに多かったです。
- ・ぼくはけがをしていて、川には入れませんでした。さかながおよいでいるのが見えました。こうこうせいのおいさんが、つかまえた生き物をたくさん見せてくれました。

学年：第2学年

学習活動名：みんな生きている（3月12日）

見られた子どもの変容：

冬の機関庫の川は、夏の機関庫の川とどんな違いがあるかについて着目して観察することができた。川の水の量や流れの速さ、生き物の様子などについて考えながら、じっくり見守る様子が見られた。3年生になったら、自分達で校舎内の水槽や機関庫の川のいけすで飼育しているサケの稚魚を放流することを知り、さらに学習の意欲を高めることができた。

【子どもの感想】

- ・川の水はとてもきれいでした。こおっているところがあって、ばしょによってながれがおそいところがありました。

様式 14-3

[学校部門] 単学年・複数学年

[見られたことの変容]

助成番号	助成事業名	学校名
2024-7214-002	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校



学年： 第3学年

学習活動名：サケの稚魚放流（5月1日）

見られた子どもの変容：

昨年度の10月から校舎内の水槽で育ててきたサケの稚魚を機関庫の川に放流した。約半年の期間、受精卵の姿からサケを見守ってきた子どもたちは、楽しさと寂しさの気持ちをもって、放流して泳ぐ姿を観察していた。

事前学習として、放流後のサケの様子をイメージするために、5m四方の十勝川流域大型地図を活用し、十勝全体の川をつながりやその様子について確認する時間を設定している。

【子どもたちの感想】

- ・がんばって帰ってきてほしいと思いながら放流しました。
- ・小さなサケの赤ちゃんがこれから海まで行くなんてすごいと思いました。
- ・サケが大きくなるまで大変だと思いました。もっとサケのことを知りたくなりました。

学年： 第3学年

学習活動名：サケについて学ぼう（5月28日）

見られた子どもの変容：

サケの稚魚の放流を学習した子どもたちは、サケがどのように成長し、放流した川に戻ってくるのかについて、地域ボランティアの石垣章さんをお招きし、スライド等を活用しながら詳しく説明をしていただいた。サケの稚魚は、川に棲む水生生物をえさとして成長する内容に興味をもって聞く姿が見られた。

【子どもたちの感想】

- ・石垣さんのおかげでサケのことをくわしく知ることができました。もっと勉強してサケマスターになりたいです。
- ・サケが生きていくことやたまごを生むことの大変さを知ってびっくりしました。
- ・人とサケはずっと昔からつながりがあることがわかりました。サケの命をもらって食べることに感謝したいです。
- ・サケ、動物、自然のかかわりを多く知ることができました。





学年：第3学年

学習活動名：きかんこの川の虫をしらべよう（6月18日）

見られた子どもの変容：

地域ボランティアの石垣さんから水生昆虫のお話を聞いた子どもたちは、サケの稚魚を放流した機関庫の川に生息する水生昆虫について調べることにした。

川底にある石にたくさんの種類の水生昆虫がいることを知り、仲間分けや名前を調べる活動を進めることができた。きれいな川にしか生息しない水生昆虫をたくさん見つけることができた。

【子どもたちの感想】

- ・石垣さんに教えてもらった水生昆虫を見つけることができました。機関庫の川をきれいにして、サケの稚魚のえさになっているんだなあと思いました。
- ・今後のゆたかの学習で水生昆虫について、もっとくわしく調べてまとめてみようと考えています。



学年：第3学年

学習活動名：きかんこの川のふしぎをさがそう（6月27日）

見られた子どもの変容：

先週18日（火）に実施した水生昆虫の仲間分けやきれいな川にしか生息しない水生昆虫をたくさん見つけた子どもたちは、改めてきかんこの川で見つけたものや不思議に思ったことを見つけにきかんこの川に出掛けた。

それぞれ子どもたち自身で、きかんこの川はもちろん、その川につながる大きな川（売買川・札内川・十勝川など）やそこに生息する生き物や植物に関心を高め、今後の課題作りのきっかけとなる活動を進めることができた。

【子どもたちの感想】

- ・ザリガニがたくさんいてびっくりしました。どうしてこんなにいるのか不思議に思いました。
- ・ウチダザリガニがたくさんとれました。ニホンザリガニと形はにているけど、大きさにちがいがあるのかなと思いました。今後のかだいにしたいです。



学年：第3学年

学習活動名：きかんこの川周辺に生息する動物（7月11日）

見られた子どもの変容：

帯広畜産大学の動物生態学に精通されている先生を講師



としてお招きし、機関庫の川周辺に生息する動植物の観察を通して、その生態系について考える学習を実施した。

事前に機関庫の川周辺の木々に定点カメラを設置し、どんな動物が見られるかについて確認することができた。講師の先生と実際に林の中を観察した際には、木や土のちょっとした変化から動物がどのように過ごしているかについて、詳しく知ることができた。

また、キツネとリスの人形を使ったアクティビティでは、それぞれの動物の立場になって真剣に考える子どもたちの姿が見られた。

【子どもたちの感想】

- ・帯広や十勝に生息している野生動物について詳しく知ることができました。
- ・機関庫の川の近くでリスが埋めた実が、木になり林ができていくことがわかりました。



学年：第3学年

学習活動名：きかんこの川の水をしらべよう（7月17日）
見られた子どもの変容：

機関庫の川について、3種類の薬品（PH・COD・NH₄）を扱い、客観的なデータを知る学習を行った。サケの放流を実施している川は、きれいな川（清流）であると予想する子どもたちが多い中、数値がよくない（きれいではない）結果となったグループもあった。学年全体としては、きれいな川であるという意見にまとめ、今回の経験を生かし2学期末のまとめの発表会に生かそうとする子どもたちも多くいた。※後日、実験方法について子どもたちと振り返った結果、実験キットの扱い方の難しさから数値にうまく反映できなかったことがわかった。特に、COD（有機物のこさを調べる）の薬品については、薬品を少し触ってしまうだけで有機物の反応が出てしまうため、子どもたちは苦労していたようである。



学年：第3学年

学習活動名：きかんこの川の生き物をしらべよう
（8月28日）

見られた子どもの変容：

今年度も2学期初頭に、NPO 法人十勝多自然ネットのご協力で「水辺体験学習」を実施することができた。川の専門家



の方々と関わりながら、調査活動を通して川の現状や課題を的確にとらえることがねらいである。

本実践では、「生き物を種類ごとに分け、個体数を計数する」「ウチダザリガニが多い理由について考える」「種類ごとに体形や手触りが違うことを観察する」といったことなどについて学ぶことができた。

実際の実践の中で、「ウチダザリガニが少ない」「魚類のウグイ、フクドジョウ、ヤマメ、ハナカジカが多い」といった例年のデータとは違った結果が表れた。これらのデータについては、今後も第3学年の取組として計数し、機関庫の川の動向の変化として見守っていく。

【子どもたちの感想】

- ・いろいろな魚やザリガニの捕り方を教えてくださいました。今後、どこにどんな魚がいるのか、どうしたらたくさん捕まえることができるかを調べてみたいです。
- ・機関庫の川にいる魚の名前をいっぱい知ることができてうれしかったです。



学年：第3学年

学習活動名：きかんこの川の生き物をくわしくしらべよう

(9月19日・9月27日)

見られた子どもの変容：

学年全体で深めていきたい内容を出し合い、共通の課題を調べるグループを作り、まとめの準備ができた3年生は、機関庫の川における実地での仕上げの学習を行った。

9月19日、27日の両日も比較的気温が上がった午後実施し、グループごとに調べてみたい課題に向かって、最後のまとめの取組を進めることができた。

これまで水生生物や薬品を活用した学習や外部講師の方々による水辺体験学習に取り組んできた3年生は、それらの経験を土台としながら、12月の学習報告会に向けて意欲的に活動することができた。河川の学習で使う道具について、自分たちで必要な準備を率先して進めることができていたことも大きな成長である。



学年：第3学年

学習活動名：ウチダザリガニの調理（10月15日）

見られた子どもの変容：



10～12月の期間、各課題別のグループごとに分かれてまとめの学習の取組を進めた。

そのうち、ザリガニけんきゅうグループ（12人）は「ウチダザリガニを捕まえていろいろ調査する。ウチダザリガニを食べることができるのか。」という課題に迫るために、地域ボランティアの方々をお招きし、ウチダザリガニの試食を行った。外気温が低い時期ではあったが、午後からグループのメンバーと地域ボランティアの方々とウチダザリガニを捕獲し、家庭科室に移動後、調理方法を学びながら、実食する流れとなった。大小様々なウチダザリガニを素揚げ後、食べ方を教わり（特に大きなサイズのウチダザリガニ）、感想やまとめを述べる事ができた。

これらの実体験は、12月の学習報告会で多くの保護者の方々の前で発表することができた。



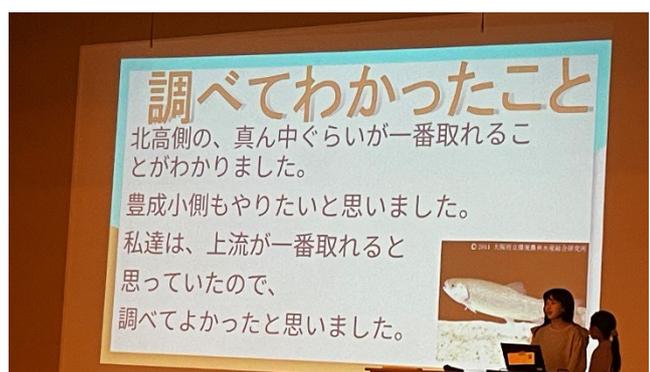
学年：第3学年

学習活動名：川の学習報告会（12月10日）

見られた子どもの変容：

12月10日の参観日に日程を合わせて、川の学習報告会を実施した。この日を迎えるにあたり、約2か月間にわたり、研究・調査内容を決め、地域ボランティアの方々に教えていただいたり機関庫の川で実地調査を行ったりしながら、準備を進めてきた。

今回は、すべてのグループにおいてタブレット端末を活用し、スライド発表を实践した。実際に調べてきたことを保護者の方々に見やすくわかりやすく紹介するための準備をするために練習を重ねてきた。当日は、体育館いっぱい集まった保護者の方々やお世話になったボランティアの方々に前に、堂々と発表し活躍する子どもたちの姿が見られた。



様式 14-3

[学校部門] 単学年・複数学年

[見られた子どもの変容]

助成番号	助成事業名	学校名
2024-7214-002	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校



学年：第4学年

学習活動名：水道出前教室（6月26日）

見られた子どもの変容：

昨年度、4年生は機関庫の川を学習材として、体験活動・調査活動を通して、将来の機関庫の川を想像して自分にできることを考える学習をしてきた。

この日は、機関庫の川が流れ込む札内川の水が、自分たちの暮らしを支えていることを実感する時間となった。校区内に稲田浄水場があること、そこから水が供給されていることについて、改めて知ることができた。

これまでの学習と自分たちの生活とをしっかりと関連付けてお話を聞く機会を設けることができた意義のある時間となった。

学年：第4学年

学習活動名：自然災害から暮らしを守る（7月16日）

見られた子どもの変容：

昨年度は、機関庫の川をフィールドとして課題をもって様々な取組をしてきた4年生は、北海道エールセンターで新たな視点から学習に取り組んだ。機関庫の川と同じ十勝川水系である札内川を学習材として今まで学習してきたこととの比較や新たな発見をするきっかけとなる時間となった。

エールセンターの職員の方々から学習するにあたっての意義や注意点などをご指導いただいた後に、札内川での水質調査、水生生物調査を実施した。子どもたちは、昨年度に機関庫の川で実践している薬品を用いた水質調査、水生生物調査と同様の学習だったため、スムーズな取組を行うことができた。

その後、フォーメーションを組んでの浅瀬横断や川流れ体験を実施した。これらの体験を通して、服が濡れて川に入る感覚や見た目と反した流れの強さについても学ぶことができた。





学年：第4学年

学習活動名：親子防災教室（9月20日）

見られた子どもの変容：

総合的な学習の時間を活用し、子どもたちはもちろん、保護者の方々に広く参加を呼び掛け、帯広市危機対策課の方を講師としてお招きし、川の氾濫等による水害が起こった際の「親子防災教室」を実施することができた。

前半は、専門家の方による講話で今まで学習したことを生かしたり知識を広げたりする時間を設けていただいた。後半は、広い体育館を活用し、携帯用トイレの仕組みやアルミシートによる担架の作り方を実践したり、防災カルタをしたりして、災害についての充実した学習に取り組むことができた。防災倉庫に保管してあるものを実際に知る貴重な2時間となった。

【子どもたちの感想】

- ・迷わず行動することの大切さを親子で知ることができました。家族でしっかり話し合いをしたいです。
- ・水害が起こったときの、あっという間に水かさが増えていく映像を見て、素早く避難することの大切さがわかりました。
- ・水害のときには、車などの乗り物に乗らない方がよいことがわかりました。もしものときのための防災グッズを準備しておきたいです。

学年：第4学年

学習活動名：自然災害からくらしを守る（12月12日）

見られた子どもの変容：

9月の総合的な学習の時間に親子で水害が起こった際の行動の仕方や避難所でできる取組について学んだ子どもたちは、社会科の「自然災害からくらしを守る」の単元のまとめとして、どのようなところで水害が起きるかについて学ぶ時間を設定した。

豊成小学校のセンターホールにある大型地図を活用し、アクティビティを通して「どのようなところで水害が起きるか」について考える1時間となった。帯広市内を流れる川沿いに立った子どもたちは、ボールを水に見立て、ボールを増やしたり渡すスピードを速くしたりしながら、水害の起きやすい地点について体感することができた。ハザードマップも

活用し、身近に水害が起こった際の対応方法について真剣に考えることができた。

【子どもたちの感想】

- ・ハザードマップで水害が起きやすい危険な場所をくわしく知ることができました。
- ・今日学習したことを家族に伝え、話し合いをしたいと思います。
- ・今回の学習を通して、台風や大雨が来る前に、避難場所や事前準備について確認することが大切だということがわかりました。

学年：第4学年

学習活動名：水のゆくえ（3月13日）

見られた子どもの変容：

理科の単元で学んだ「水のゆくえ」の発展的な学習として、校舎内のホールでアクティビティに取り組んだ。水のしずくとなって、様々な場所に移動するときに、どのように水が変化するかについて真剣に考える姿が見られた。オリジナルのお話を作る場面では、苦勞している子どももいたが、友達同士で交流しながら、振り返りの場面では楽しみながら発表会を行うことができた。

【子どもたちの感想】

- ・水はどんな場所にもいて、様々な形に変わることが改めてわかりました。
- ・水の気持ちになって旅に出ることで、どんな変化が見られるかについて、しっかりイメージをわきました。



様式 14-3

[学校部門] 単学年・複数学年

[見られたこどもの変容]

助成番号	助成事業名	学校名
2024-7214-002	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校



学年：第5学年

学習活動名：植物の発芽と成長（4～5月）

見られた子どもの変容：

例年、理科の単元「植物の発芽と成長」の発展的な学習として、理科室のテラスを使って、インゲン豆の発芽についての条件検証を行っている。

実験に使用する土には、昨年度の6年生が作成したザリガニ堆肥を活用した。「ザリガニ堆肥あり」と「ザリガニ堆肥なし」の土を比較し、成長（葉の数や色、大きさ）について日々の観察から、比較することができた。

7月下旬には、「ザリガニ堆肥あり」のインゲン豆からは大きく育ったサヤを収穫することができた。



学年：第5学年

学習活動名：十勝の農業を体験しよう（5月～）

見られた子どもの変容：

総合的な学習の時間の単元「十勝の農業を体験しよう」では、教材園でザリガニ堆肥を活用し、バジル・ミニトマト・ピーマン・トウモロコシ・ジャガイモを育てることとした。

6月19日（水）に、14名のJAかわにし青年部の方々が来校し、学校で育てている野菜についてのアドバイスをいただいたり酪農の仕事について学んだりすることができた。十勝の水資源や土の大切さについて詳しく知る時間となった。

また、9月24日（火）には、十勝帯広を中心に展開している「満寿屋パン」の杉山社長とスタッフ2名が来校し、教材園で収穫した野菜と十勝産小麦、チーズを使ってのピザ作りの学習を実施した。地産地消の素晴らしさも体感することができた時間となった。





学年：第5学年

学習活動名：流れる水のはたらき（11月5日・13日）

見られた子どもの変容：

理科の単元「流れる水のはたらき」の中で、「十勝川の合流部において洪水被害をなくすにはどうすればよいか」について、グループ討論や発表を实践した。

北海道開発局2名の職員に来校していただき、本校の理科専科の先生と一緒に、模型実験、洪水映像、河川事業の説明をしていただいた。大規模な河川による水害が起こる可能性があることを知った子どもたちは、グループ毎に「十勝で水害が起こらないための河川事業」を検討した。タブレットのスライドを使って、「合流点のダムの設置」「地下水槽」「新水路」「遊水地」など、自分たちが過ごす地域に活用できそうなアイデアを発表し合うことができた。

一つのグループが発表を終える毎に、開発局の方々の丁寧な説明や講評をいただいた子どもたちは、私たちの地域の防災教育について、より自分事として考えることができた様子だった。

様式 14-3

[学校部門] 単学年・複数学年

[見られた子どもの変容]

助成番号	助成事業名	学校名
2024-7214-002	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校



学年：第6学年

学習活動名：生き物どうしのつながり（11月11日）

見られた子どもの変容：

11月11日（火）に、理科の単元「生き物どうしのつながり」の一環として、「外来種」をキーワードに学習を展開した。授業の前半で、「外来種」にはどんな生き物がいるのか、どうして日本に来たのか、どんな悪影響があるのかなどについて、海外から日本に持ち込まれた外来種について、持ち込まれた理由やその影響をまとめ、6年生と一緒に考察した。

また、話題を豊成小学校と身近な環境にある機関庫の川にうつし、そこに生息しているウチダザリガニ（外来種）の扱いや命についての考えを深める時間を設定した。ウチダザリガニの命についてよく考え、豊成小学校の伝統も守っていく方法について考える機会となった。

【子どもたちの感想】

- ・外来種は駆除しなくてはいけない存在だけど、その命をもらって、明日は気持ちを込めて、たい肥を作りたいです。
- ・外来種がおよぼす危険についてわかりました。外来種の命を無駄にしないようにしたい。
- ・ザリガニたい肥を作る目的は、外来種の駆除するためだけでなく、次の命につなぐということも心に留めておきたい。



学年：第6学年

学習活動名：ザリガニ堆肥を作ろう（11月～）

見られた子どもの変容：

理科の単元「生物どうしのつながり」で学んだ内容を基に、6年生の学級毎に、生き物の命の重さについて考えながら、翌年の農園活動に生かされる「命のプレゼント」として、「ウチダザリガニ」の有機肥料作りに取り組んだ。堆肥の材料となるウチダザリガニに、米ぬかやおから、もみがらくん炭を加え、日数を開けながら計8回の繰り返し作業を実施した。

6年間の集大成となる今回の学習は、機関庫の川をフィールドとして活用・展開した「生きる力」を育成する実践となっている。



学年：第6学年

学習活動名：自然とともに生きる（1月～）

見られた子どもの変容：

今までの学習のまとめとして、今後持続可能な社会をつくるために、具体的に自分達ができることは何かについて真剣に考える時間となった。外来種についてはもちろん、大気や水の汚染、エネルギー問題など、地球全体の人間に活動が大きく環境を変える影響があることについて学んできた。今年度も在校生のために制作した「ザリガニ堆肥」を、最高学年としての思いを伝えながらプレゼントをすることができた。

助成番号	助成事業名	学校名
2024-7214-002	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり	帯色市立豊成小学校

主な実施箇所

※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。
 ※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。
 (縮尺は1/50万～1/100万程度)



★「機関庫の川」は校地内。



★「札内川」は4年生の郷土体験学習で実施。

助成事業の主な実施箇所